

第一小学校

10月26日～10月28日(2泊3日)

○日程表

10月26日(月)		10月27日(火)		10月28日(水)	
8:15	出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:00	「ぶどうの丘」到着・昼食	6:30	朝の会	6:30	朝の会
12:00	「ぶどうばたけ」到着	7:15	朝食	7:15	朝食・荷物整理・清掃
	事前学習発表・ぶどうもぎ体験	9:00	竜門峡ハイキング	8:30	草木染体験
14:00	大和自然学校到着	12:30	昼食・バスにて下山	10:30	絵はがき作り(スケッチ)
	開校式・避難訓練	13:00	景德院散策	12:00	昼食
15:00	ぶどうジャム作り	14:30	ほうとう作り	13:00	閉校式
17:40	夕食	17:00	夕食	13:30	出発
18:15	学年レクリエーション	18:15	星空観察	15:30	学校着
19:30	学習の記録・入浴	19:30	学習の記録・入浴	16:00	解散式・下校
20:30	健康観察・班長会	20:30	健康観察・班長会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

けやきの時間(総合的な学習の時間)を使って、プレセカンドスクールの目標や集団生活における注意点、係活動についての話し合い、各体験活動における調べ学習を行った。

(i) プレセカンドスクールへ向けてのガイダンス

初めての宿泊行事に向け、目標の設定とルール決め、必要な係活動の話し合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。また日程表の中から、事前に学習しておかなければいけないことを話し合い、7つの学習テーマについて分かれて課題別学習を進めるようにした。

(ii) 課題別学習と現地での発表

「ぶどう」「動物」「自然」「名産」「星空」「歴史」「リニアモーターカー」の課題別グループによりインターネット、書籍で情報を収集し、模造紙にまとめる作業を行った。調べた内容は、現地での活動の前に発表し、その際発表することを意識した模造紙作り、話し方を指導した。

山梨県大和村・勝沼町

参加人数 男子23名 女子20名
計43名

② 事後の学習内容

- ・学年で活動の振り返りを行い、けやきの時間に、事前に調べた内容や現地での生活を終えて分かったことや感じたことを、もう一度まとめ直し、学校公開の時に保護者向けへ発表を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、竜門峡ハイキング

ハイキングには、ガイドを2名依頼した。ハイキング中はそれぞれのポイントで、生き物の生態や植物の解説を受け2時間30分「自然観察」をじっくり行うことができた。比較的安心して歩けるコースだからこそゆっくりと自然観察をすることができた。

2、星空観察

事前学習の内容を発表した後、教諭の解説を受けて、外のテラスにて月と星の観察を行った。夕方から見ていた月の動きや、カシオペア座を観測でき、星空を自分の肉眼で確かめることができたのは、子ども達に感動を与えた。

<学習体験活動>

1、ぶどうもぎ体験

ぶどうもぎ体験では、事前学習の内容を発表した後、山梨県とぶどう産業の歴史、ぶどう栽培の苦勞、ぶどうの種類と品質管理などについて園主よりお話を頂いた。ぶどう畑では食べ頃の見分け方や葉の色などについてもアドバイスを受け、もぐことができた。園内で1つでも味見ができればぶどうの違いを実感できるように感じた。

2、ほうとう作り

ほうとう作りでは、8班に分かれ調理を行った。約3時間にわたる作業となったが、自分で調理した料理を必死に口に運ぶ姿が見られた。自分で食すものを作るというのは、作業に真剣さを生むとともに、生地をこねる・練り上げる、のばすという一連の作業工程は、「食す」までの大変さを実感することができた。協力してものを作る大切さが学ぶとともに、地元の「名人」にも来ていただくことができ、地域の人や特色ある食事に触れる機会となった。

3、草木染め

草木染めは、たまねぎの皮を使用して染色を行った。豆乳を使った模様づくりは、仕上がりがどのようなになるか子ども達も興味津々であった。もの作りで終わるのではなく、身近な自然

を生かした生活の知恵についても考える良い機会となった。

○児童の感想

- ・ほうとうは、食べた事はあったけど、自分で作ったものの方がおいしく感じられた。(ほうとう作りから)
- ・竜門峡ハイキングでは、ねずみとリスのクルミの食べ方の違いに驚きました。とても面白いと思いました。(竜門峡ハイキングから)
- ・宿舎での共同生活では、家とは違ういい経験ができました。これからはおうちの手伝いを積極的にやりたいです。(宿舎での生活から)

○保護者の感想

- ・ぶどうジャム作りの経験をよく話してくれました。とてもおいしかったので、家でも作ってみようと思います。
- ・私は、まだ山梨県（甲州市）に行ったことがないので、皆さんの発表を聞いて一度行ってみたいと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

<事 前>

ガイダンスで、「宿泊行事を進めるに上で大切なこと」を投げかけ、児童自らが課題を設定し、学習の進め方などを考えさせるようにした。

特に、「宿泊による生活時間を活用し、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身につけるとともに、一人一人の子どもの創意を喚起し、情操を養い、個性の伸長を図る」というねらいを重視し、「協力」の重要性を強調した。その結果、係活動における責任感や班活動における協力の意識、児童の一人ひとりの判断力が高まった。課題別学習においても、見通しをもって取り組むことができ、調べた内容を詳細にまとめ、発表することができた。また、事前学習における情報収集や発表の活動を通して、パソコンに接する機会を作ることができ、情報機器の操作や活用の仕方に触れることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・初めての宿泊を伴う行事であるので、児童の不安を取り除くことが必要であった。不安材料の多くは、友達との人間関係にある。そこで今回は、グループ編成を行う前に、児童に宿泊行事の意義を十分説明し、留意点をあげた後、グループを編成させた。グループ編成については、いろいろな方法が考えられるが、子ども自身が納得できる方法・過程を踏むことが重要である。
- ・セカンドスクールでは、民宿に分泊する形をとっている。初めての宿泊行事が分泊という従

来の形よりも、共同の施設に泊まり、学年を母体にした班活動を経験させておいた方が、次年度に向けて、集団生活におけるルールの徹底や精神面での不安の解消につながり、有効であると思われる。

- ・山梨県：勝沼町及び大和村は甲府盆地に位置し、果実栽培を中心とした農業が盛んである。山の斜面を農園作りや気候、品種、加工食品等について農家の方から話を聞いたりして、地域の特性を知ることができた。このことは、5年生の学習内容にある米作りや「我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色」に生かすことのできる内容である。

○次年度に向けての反省・課題

- ・実施踏査の折には、レンタカーの使用をさせていただいたので、柔軟な計画が立てられた。
- ・活動予定を作成する際には、学園の周辺散策など、時間や内容に縛られない「自由な時間」があってよい。この時間があることで、仲間との結びつきを強めることができたり、児童個々の関心にそった探求活動が可能になってくる。
- ・今回の宿舎「大和自然学校」は、4年生が初めての宿泊学習を行うには適している。しかし、1部屋（6畳）に5名が宿泊するのが限度であり、総勢60名を越えると、広間を使ったり、保健室が別館になってしまう。このことから、来年度は80名を上限とした宿泊先を検討していく。
- ・プレセカンドスクールが「山」、セカンドスクールも「山」が主な活動のフィールドになっているため、今後「海ー山」などといった、2学年を見通した活動場所の開拓も課題となってくる。



【ぶどうもぎの様子】



【竜門峡ハイキング】

第二小学校

10月14日～10月16日(2泊3日)

○日程表

10月14日(水)		10月15日(木)		10月16日(金)	
7:30	出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:30	野鳥の森(着)	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	昼食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:15	野鳥の森散策	9:20	地引網体験(那古海岸)	8:45	沖ノ島たんけん(沖ノ島)
14:45	開校式、避難訓練	12:00	昼食	11:30	昼食
15:30	房州うちわ作り	13:15	ビーチコーミング(沖ノ島)	12:20	閉校式
18:00	夕食	17:00	夕日鑑賞(ホテル前海岸)	16:00	学校着、解散式
19:00	入浴	18:00	夕食		
21:15	就寝	19:00	入浴		
		20:00	海ホテル鑑賞会		
		21:15	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・9月のはじめに、総合的な学習の時間を使って館山でお世話になる方々に学校に来ていただき、事前学習を行った。館山市の地形や特徴、野鳥の森で見られる野鳥の種類、沖の島のビーチコーミングで見つけられる物などについての話を聞き、プレセカンドスクールに向けての学習意欲が高まった。
- ・6つの活動(野鳥の森・房州うちわ・地引き網・沖ノ島探検・ビーチコーミング・ウミホテル)ごとのグループを編成し、調べてみたいことや疑問に思ったことなどをもとに、グループに分かれて調べ学習を進めた。国語科および総合的な学習の時間を使って各活動についての新聞作りを行い、さらに、総合的な学習の時間を使って新聞の発表会を行った。
- ・総合的な学習の時間を使って、房州うちわの絵柄作り(マーブリング)を事前に行った。
- ・生活班の中で、班長、副班長(生活係)、レク係、食事係、保健係の役割分担をし、係ごとに集まって仕事の内容確認や計画を進めた。
- ・音楽科では、現地の歌「レッツゴー沖ノ島」を振り付けと併せて歌い、現地のレクリエーションにも活かせるよう、練習をした。

② 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールでの活動メモや日記をもとに、国語の時間に作文にまとめた。特に心に残ったこととその理由を中心に、はじめ・中・おわりを意識して作文を構成させた。
- ・ 事前学習で調べたことや、実際に体験してわかったことや聞いたことをもとに、国語科や総合的な学習の時間を使って、活動グループごとに新聞づくりをした。
- ・ 3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を行った。活動グループの新聞をもとに発表原稿を考え、3年生に伝わるように内容を推考しながら発表練習を行った。
- ・ 道徳の時間を使って、プレセカンドスクールの生活を振り返り、自分たちが成長した点、課題だった点を挙げ、今後どのように生活していくべきか話し合った。
- ・ プレセカンドスクールで作った「房州うちわ」を西部コミュニケーションセンターに展示・発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、野鳥の森

館長さんから、「野鳥の森」の散策のポイントや注意事項などのガイダンスを聞くことで認識を深めた。散策（山登り）ではグループごとに助け合いながら行動し、野鳥や昆虫、植物など貴重な自然を観察すると共に、展望台から館山湾を望む眺望を楽しんだ。

2、夕日鑑賞会

館山湾に沈んでいく夕日を、じっくり時間をかけて鑑賞することで、普段見ることのできない自然現象の素晴らしさや偉大さを体感した。

3、ウミホタル観賞会

現地の方から、ウミホタルの生態や、戦争時代は発光信号として用いられていたという館山の歴史にまつわるお話を伺った。観賞会では、ウミホタルが発光する仕組みを聞いた後、発光する瞬間の様子を観察することで、美しさや不思議さを体感した。

4、沖ノ島の話・ビーチコーミング

現地のNPO法人「海の鑑定団」の方から島のガイダンスを聞き、生き物や自然についての話をうかがいながら島を散策した。ビーチコーミングでは宝贝やシーグラス、海からの漂流物をめあてに一生懸命砂浜を探す姿が見られた。

5、沖ノ島たんけん

海の生き物や自然を探すネイチャーゲームを行い、行動班で夢中になって課題になるものを探す姿が見られた。後半はビーチコーミングを行い、宝贝やシーグラスなど海ならではの自然を見つける活動を十分展開できるようにした。

<学習体験活動>

1、房州うちわ作り

地元の伝統工芸であり、日本の三大うちわでもある房州うちわ作りのビデオを視聴した後、職人さんから手ほどきを受けながら、うちわを作成した。細かい作業や匠の技を感じ取りながら、うちわ作りの精巧さや難しさ、素晴らしさを体感することができた。



【房州うちわ作り】

<生活体験活動>

1、地引き網体験

地元の漁師の方と一緒に網をまいて、魚が上がっていく様子を直に体験・観察しながら学習することができた。児童は魚が捕れるごとに大興奮しながら学習を進めることができた。捕れた魚は漁師さんから名前や生態などについて説明を受けた。さらにスズキやイナダ、イカ、タイなどの捕れた魚を夕食のおかずにして、食事を楽しんだ。



【地引き網体験】

○児童の感想

- ・野鳥の森では、鳥の姿は見えませんでしたでしたが、いろいろな所から鳴き声が聞こえてきました。聞きたびに違った鳴き声でおもしろかったです。
- ・房州うちわは、和紙に骨組みを均等にはるのがむずかしかったです。きれいなうちわになるように一生懸命話を聞いて作ったら、きれいにできたのでうれしかったです。
- ・地引き網では、ぬるぬるした魚を手でつかむのが大変でした。たくさんとれた中でも、真鯛がとれたのには驚きました。漁師さんも奇跡だと言っていたくらい大きな鯛がとれてうれしかったです。
- ・ビーチコーミングでは、シーグラスやいろいろな貝を拾いました。貝の名前をたくさん教えてもらいました。タカラガイを見つけるのが難しかったけれど、大きな物が見つけれられてよかったです。
- ・夕日鑑賞では、夕日が静かに沈んでいく様子をじっと鑑賞しました。沈んだ瞬間に空が虹色になったのがとてもきれでした。
- ・ウミホテル鑑賞では、とても小さなウミホテルなのに、あんなにきれいに光るのにびっくりしました。

○保護者の感想

- ・インフルエンザの流行が心配されましたが、無事全員参加することができて本当に良かったと思います。学習でも生活でも、様々なことを学んだ3日間だったようです。
- ・初めての宿泊体験で、私も本人も心配が多かったのですが、笑顔で帰ってきた様子を見て安心しました。3日間、充実した毎日だったようで、いろいろな出来事を話してくれました。
- ・発表会では、自分たちの課題について分かりやすくまとめていました。3年生の前でハキハキ発表できていて、充実した体験をした成長を感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

2学期になって館山の自然や伝統工芸、現地の人々など学習内容ごとにグループを作った。担当した学習内容について事前に調べ、事後では発表会に向けた新聞作り、発表練習というまとめの学習に取り組み、活動した。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールで必要な基本的生活習慣・公共性・規律・集団行動のルール・マナーなど、親元から離れ、自ら行動できる素地をプレセカンドスクールにおいて養う。

○次年度に向けての反省・課題

昨年度は、夕食後にも活動を計画したために、入浴の時間が短くなり、就寝時間も遅くなったという反省があった。今年度は1日目の夕食後の活動は計画に入れず、入浴後の1日の反省や就寝準備の時間を十分にとった。初日でまだ集団生活に慣れていないため、1つ1つゆとりをもって行動することができた。

2日目の沖の島探検では、学年を2つのグループに分け、「海の鑑定団」の方に話を聞きながら散策をした。しかし、1グループの人数が多いため、鑑定団の方の話を聞き取るのが困難だった。次年度は4つのグループに増やし、より充実した活動が行えるようにしたい。

雨天プログラムに予定していた赤山地下壕見学は、4年生の学習には内容が難しい。次年度は代わりに南房パラダイス見学を取り入れ、鳥や植物等の観察を行わせたい。

「セカンドスクールにつながるプレセカンドスクール」を前提として活動内容やねらいを全職員がさらに共通理解をして実施していきたい。

第三小学校

9月14日～9月16日(2泊3日)

○日程表

9月14日(月)		9月15日(火)		9月16日(水)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	朝の会・湖畔散策	6:30	朝の会
11:00	富士山5合目到着	9:00	紅葉台ハイキング 紅葉台展望台 →三湖台 →氷穴見学	9:00	閉校式
12:30	御中道トレッキング			9:30	さかな公園(水族館見学)
16:00	ホテル着・開校式	15:00	ホテル着	11:00	郷土料理作り体験 ・ほうとうの由来 ・ほうとう作り体験 ・昼食(ほうとう)
19:00	はがき書き	18:30	地元の方の民話を聞く会 キャンプファイヤー	15:30	学校到着・帰校式
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・学校での初めての宿泊体験ということで、児童は、「どんなところに行くのかな。」「何をしに行くのだろう。」など、たくさんの不安をもっていた。期待よりも不安の方が大きい児童もいたが、宿泊体験のめあて、どこに何をしに行くのか、宿泊所での生活などを話していくうちに、「早く行ってみたい」「友達と泊まるのはドキドキする」とプレセカンドスクールを楽しむようになった。
- ・体験活動を充実させるために、総合学習の時間に体験することの調べ学習を行った。自分で調べたい内容を選択し、調べたことを新聞にまとめる活動を行った。選択テーマは、富士山(気候・動植物・成り立ち)、富士五湖、氷穴、山梨県の名産品のほうとうである。児童一人ひとりがまとめた新聞は、学年で一冊にまとめ、プレセカンドスクールの資料として活用した。
- ・児童が作成したプレセカンドスクールについてまとめた資料を用い、全体で確認したい内容について取り上げて説明した。児童がまとめたものなのでわかりやすく、身近に感じ、説明を聞いたり学習を深めたりすることができた。

山梨県河口湖町

参加人数 男子27名 女子23名
計50名

② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中でもっとも印象に残ったことを伝えるために、作文にまとめた。
- ・「プレセカンドスクールを3年生に伝えよう」という活動を総合学習の時間に毎年行っている。富士山・富士五湖・氷穴・地元に伝わる民話・湧水に生息する生物・ほうとう作り体験を伝えるグループに分かれ、模造紙にまとめたり、紙芝居にしたり、劇を演じたりしながら、グループごとに発表方法を工夫して取り組んでいる。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、トレッキング

1日目は、富士山5合目での昼食後、5合目から御中道トレッキングコースを通して奥庭前までの道のりを歩いた。富士山ボランティアセンターで4名の自然解説員を講師としてお願いし、4つのグループに分かれて3時間程の行程であった。自然解説員さんの話を聞きながら、アカマツ、ダケカンバ、コケモモなどの富士山の植物を触ったり、森林限界や植物の話を聞いたり、火山岩を見たり触ったり、石の重さを比べたりしながら歩いた。富士山のでき方についても、大変詳しく、興味深い話を聞くことができた。児童は疑問に思ったことを自由に質問し、メモ用紙はわかったことでいっぱいになっていた。厚い雲に覆われる天候であったが、一瞬だけ富士山の頂上を眺めることができた。すばらしい景色に、子どもたちから感動の声があがった。



【富士山トレッキングの様子】

2、ハイキング

2日目は、ホテルから紅葉台の入り口までバスで移動し、紅葉台→三湖台→紅葉台（昼食）→青木ヶ原樹海→氷穴のコースを歩いた。紅葉台からは富士山の裾野が広がっている様子や広い樹海を見ることができた。周りの山々に比べて富士山が大変高い山であることに感動した。また、宿泊ホテルそばの河口湖以外の富士五湖（精進湖、西湖）も眺めることができた。三湖台までの道のりは、前日までに降った雨でぬかるんで歩きにくい道だったが、児童はお互いに声を掛け合い協力して登ることができた。三湖台では、気持ちのよい風を受けながら、30分間ほど自由な時間をとった。景色を眺めたり、昆虫を探して観察したり、大きなすすきを探って長さを比べたりするなど、個々が楽しみながら学習することができた。昼食はトイレがある紅葉台に戻り、班ごとにテーブルで落ち着いて食べることができた。昼食後は、樹海の中を歩い

て氷穴に向かった。まわりの樹木や足元の溶岩の様子を観察しながら、ハイキングを楽しむことができた。

3、氷穴見学

ハイキングの後に氷穴見学を行った。穴の奥へ進むほど、どんどん寒くなるのを肌で感じる事ができた。また、暗く、天井が低くなっている様子は探検をしているようで、児童も興味をもって見学していた。夏季でも氷が溶けずに残っている氷柱やどこまで続いているかわからない地獄穴は、帰校してからの作文に書かれるほど児童の心に残っていた。

<地元の方と関わる体験活動>

1、地元の方の民話を聞く会

2日目の夜は、地元の方を招き、河口湖の地域に昔から伝わる民話「るすが岩」を聞いた。スライドやBGMまで用意していただき、語り手のやさしい口調に全員が耳を傾けていた。次に、火の神から託された火を灯し、キャンプファイヤーが始まった。ゲーム・歌・踊りで盛り上がり、最後は全員で「少年時代」を歌いながら、友情の絆を深めた。

2、郷土料理(ほうとう)作り体験

3日目は、忍野村に移動し、湧水に生息する淡水魚の水族館を見学した。次に、ほうとう作り体験を行った。山梨県の歴史やほうとうの由来や教わった後、小麦粉に水を加えて、生地作りを始めた。子どもたちは、粉がなかなか生地にならず苦勞していたが、班で交代しながら生地に仕上げ、包丁で太めに切り麺にした。昼食は、みんなで協力して作った「ほうとう」をいただいた。大きな鍋いっぱい煮込んだ「ほうとう」が、あっという間になくなってしまった。



【ほうとう作り体験の様子】

○児童の感想

- ・ プレセカンドスクールは家族旅行のような自由な時間はないけれど、たくさんの友達と毎日生活することができて楽しかった。
- ・ 富士山のトレッキングで山道を歩いているのは大変でしたが、森を抜け、広い場所に出たとき目の前に広がる雲海や青空を見た瞬間、疲れがふきとびました。すばらしい景色をみることができ、幸せでした。
- ・ 氷穴の奥の地獄穴には、どこまで続いているか分からないと書いてありました。中がどうなっているのか知りたくてたまらないので、大人になったらまた見に来て地獄穴に入り、中はどうなっているのか自分の目で見たいです。

○保護者の感想

- ・プレセカンドスクールの準備をしているときに、自分で荷物を用意したり、必要な物を言ってきたりと、自立する姿が見られました。
- ・自分たちで2泊3日の生活をする事で、家に戻ってきてからも家のことを進んで行うようになりました。
- ・友達と密に接することで、我慢ができるようになったように感じます。困ったことがあっても、人に相談したり譲ったりするなど、自分で考えて行動できるようになりました。子どもの成長を感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習から、当日の活動の中心を総合学習の時間で取り組んだ。事前学習では、富士山や富士五湖、山梨県の名産品についての調べ学習を行った。資料をもとに、調べたことを新聞にまとめ、学年で一冊にまとめた。
- ・プレセカンドスクール終了後は、「3年生にプレセカンドスクールを伝えよう」という学習を行った。富士山、富士五湖、氷穴、湧水に生息する生物、地元に伝わる民話、ほうとう作りの6つの内容についてグループごとにまとめて発表した。3年生にわかりやすく伝えるように、劇や紙芝居、模造紙にまとめるなど、グループごとに工夫していた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・集団行動を通して、時間を守ること、部屋や荷物を片付けるなどの生活の基礎基本を学ぶことができた。セカンドスクールでは、分宿となるが今回の経験を生かして生活を送っていくことができると考える。
- ・富士山トレッキングや紅葉台ハイキングにより、富士山のでき方や地形の様子、植物などについて学習を深めることができ、普段は体験できない大自然に触れることができた。セカンドスクールで経験する尾瀬ハイキング、牧場体験、川体験など、自然体験学習の導入的な効果を得ることができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・観光地ということもあり、体験的な活動が計画しにくく、地元の人々との交流をする機会が少ないため、実施場所を変更する。
- ・雨天時の活動は計画できるが、体験活動から離れ、施設の見学が中心となってしまうがちである。雨天時の活動計画を細かく立てる必要がある。
- ・今年度の人数では問題なかったが、来年度は児童の人数が多いため、ホテルの部屋数が不足する。次年度は、実施地を変更する。

第四小学校

10月14日～10月16日(2泊3日)

○日程表

10月14日(水)		10月15日(木)		10月16日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:45	片品村東小川着、開校式	8:30	尾瀬移動	8:30	りんご狩り体験
12:00	昼食	9:00	鳩待峠	10:30	うどん作り体験
13:00	稲刈り体験	11:30	牛首(昼食)	11:30	昼食(うどん)
15:00	わくわく体験館周辺散策	15:00	各宿に移動	11:45	荷物整理
16:00	各宿に移動し顔合わせ	15:30	宿の方からのお話	12:30	閉校式、片品村出発
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	学校到着、到着式
19:30	入浴	19:00	入浴	16:30	解散
20:30	健康観察・学習の記録	19:45	宿の方への手紙、学習の記録		
21:10	次の日の準備、就寝準備	20:30	健康観察・就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・集団での宿泊に関する心構えについて
- ・グループ編成と係の仕事について
- ・持ち物について
- ・群馬県片品村について
- ・しおりの活用の仕方とスケジュールについて

② 事後の学習内容

プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動を、学校公開日に行ったプレセカンドスクール発表会で第3学年の児童と保護者に対して発表した。発表に向けて課題を選んで調べ、調べたこと・体験したことを分かりやすく伝えるための発表方法(文の組み立てやレイアウト、写真の掲載など)を宿泊した宿のグループごとに考え、工夫してポスターセッションを行った。

《発表の内容》

- 片品村全体
- 稲刈り体験
- 尾瀬ハイキング
- うどん作り体験
- りんご狩り
- 片品村の生き物

群馬県利根郡片品村

参加人数 男子34名 女子28名
計62名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、稲刈り体験

「稲の色を『黄金色』という理由が分かった。」
と言う児童がいたことから分かるが、田んぼの色を肌で感じたり、稲のにおいを感じたりすることができた。また、鎌や耕耘機を使って稲を刈り、束ねて干すまでの活動を通して、米ができるまでの行程や、米作りに関わる農家の方々の苦労まで考えることができた。また、田んぼにいる様々な動植物に触れ、眼を輝かせている児童の姿が多く見られた。



【第一日目：稲刈り体験】

2、尾瀬ハイキング

農協観光の尾瀬のガイドに付き添っていただき、5時間ほど尾瀬の自然の中を散策した。尾瀬は黄色や赤、緑といった彩り豊かな草木に覆われ、一足早い紅葉の姿を見ることができた。木道では、熊や鹿が通った跡などを見たり、川では鮎やサンショウウオを見たりと、自然を満喫することができた。

3、りんご狩り体験

澄みきった青空をバックに、真っ赤に色づいた赤城をもいでその場で味わった。りんごは引っ張るのではなく、上に持ち上げるというポイントを教えていただいた。その後、学校で静物画にするためのりんごを選び、収穫した。学校に戻ってから、図工の時間に、実物をよく見て絵を描いた。出来上がった作品は、心がこもった作品となった。

4、うどん作り体験

「うどんが、小麦粉と水からできていることを初めて知った。」という児童がいて、体験を通して、うどんの材料と、作るまでの行程を実感することができた。また、「今まで食べた、どのうどんよりおいしい。」と語る児童もあり、自分で作ったものを食べる充実感、友達と協力し合って作ったおいしさを実感することができた。

＜学習体験活動＞

- ・各宿で、片品村についてや、冬の生活についてのお話をうかがい、児童の質問に答えていただいた。
- ・稲刈り体験では、片品村で作っている米の品種や、米作りの工程、食べ物の大切さなどを教えていただいた。
- ・尾瀬ハイキングでは、農協観光のガイドの方から、鹿の通り道やイノシシの牙の磨いだ跡、山の名前や、名前が付いた理由などを丁寧に教えていただいた。
- ・りんご狩り体験で、片品村で作られている特産物を教えていただいた。
- ・うどん作り体験で、うどんの材料や作り方などについて、農協観光や宿の方々に教えていただいた。

＜生活体験活動＞

- ・初めて会った方にお世話になる体験をすることで、自分の身の回りのことを自分自身でしたり、友達と協力しながら生活することを学んだり、他人に親切にしてもらう温かさを知ることができた。
- ・靴の整理や荷物の管理、食事やお風呂でのマナー、宿での過ごし方を体験することで、セカンドスクールへの見通しを持つことができた。
- ・実際に集団での宿泊体験をすることで、友達と寝泊りし一緒に活動する楽しさを知り、セカンドスクールへの期待を持つことができた。

○児童の感想

- ・稲刈り体験をしました。鎌で刈ったり、機械で刈ったりしました。鎌で刈るときは友達と一緒にやりました。「機械で刈るにはどうやるのかな。」とわくわくしました。機械はすごかったです。私たちは稲を刈って、手で紐を結んでいたのに、機械はそれが自動でできるからです。
- ・2日目は尾瀬ハイキングで、朝から準備などでちょっと忙しかったです。バスで50分ぐらいで鳩待峠というところに着きました。そこから石でできた道や木道を歩きました。木道は往復で7キロメートルは越していると思います。帰りが登りで大変だったけど、鳩待峠に着いたときは、すごく達成感がありました。その日は疲れてぐっすり寝てしまいました。2日目が一番楽しかったです。
- ・3日目はりんご狩りをしました。1つはその場でまるかじり。2つ目は図工で絵に描く用でした。りんごはとてもジューシーで、とてもみずみずしくて、甘くておいしかったです。真っ赤なりんごが採れてよかったです。
- ・うどんは粉の状態から作りました。固めるまですごく時間がかかりました。でも、宿のお母さんが手伝ってくれて、とても助かりました。宿のお母さんは力があるなと思いました。みんなで協力して作ったうどんは、格別においしかったです。
- ・わたしはプレセカンドスクールに来てとてもうれしかったです。わたしは、学校に着いてから思いました。「家に帰ったら、プレセカンドスクールで学んだことをやろう。」と。そして、家に帰ったらすぐお母さんのお手伝いをしました。

○保護者の感想

- ・普段より友達と過ごす時間が長くなり、コミュニケーションが深まるいい機会だと思います。
また、普段では経験できない事ができて、親としてもうらやましいなと思いました。
- ・子どもにとって初めての宿泊体験で、「お泊まりはいやだな。」とずっと言っていたましたが、プレセカンドスクールが近付くにつれ、また、経験して、心からよかったと思っている子どもの様子から、行かせて良かったと思っています。
- ・ゲーム等持って行かず、自分たちで何をして遊んだら楽しいかを考え、楽しく遊ぶことができて良いことだと思いました。
- ・プレセカンドスクールでしか体験できない稲刈りやうどん作りをすることができ、食べ物の大切さ、家で食べる時と違うおいしさを感じることができたと思います。
- ・プレセカンドスクールは、子どもたちにとって、とても楽しみにしている行事で、4年生という年齢にちょうどよい日数でもあると感じている。
- ・ホームページで子どもたちの写真が見られて、様子がわかり良かったです。
- ・帰宅後、食事の配膳を細かくきちんとするようになりました。女の子に注意されたとのこと、親がいうよりよく効きます。

○総合的な学習の時間との関連について

「出会いふれあいプレセカンドスクール」という単元設定をしているが、児童の実態から、まずは現地に行き自然の中での体験そのものを最重要視した。事前学習では、現地での生活や集団行動について学ぶことに主眼を置き、友達や指導員、宿の方たちとの現地での体験に期待が持てるようにした。事後は、学習発表会で「片品で味わった感動をおうちの方や全校の友達に伝えよう」ということで、課題別でポスターセッションに取り組んだ。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、短期間の宿泊を体験することを通して、セカンドスクールに対する思いを強くもつことをねらう中で、宿の方々とのふれあいを大切にする心や、進んで自然と親しもうとする心、集団生活上の基本的なマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・尾瀬でハイキング中の全体の連絡が取りづらいので、トランシーバーを持っていくことで連絡を取り合いながら安全にハイキングをすることができた。
- ・10月の片品の気温は非常に低く、防寒の重要性を改めて感じた。児童への事前指導はもちろん、保護者説明会での十分な説明と、徹底を促したい。
- ・看護師はセカンドや日光などで度々本校に来ていただいている方なので、児童の様子をよく把握して、心身両面から適切な処置をしていただき、何よりの大きな力を発揮していただいで助けられた。また、教員との意思疎通もよくとれ、一丸となって対応することができた。

第五小学校

10月21日～10月23日(2泊3日)

○日程表

10月21日(水)		10月22日(木)		10月23日(金)	
8:15	出発式	6:30	起床	6:30	起床
		7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	開校式	8:45	自然観察(虚空蔵山)	8:45	農作業体験(りんご狩り)
12:00	昼食(ふじやまビレッジ)				
13:00	川場村散策	12:00	昼食	12:00	昼食
		13:15	酪農体験	13:00	閉校式
15:30	避難訓練				
16:00	日記書き	15:30	S L 見学	16:15	解散式
18:00	夕食	16:45	入浴		
19:00	星の観察	18:00	夕食		
20:20	入浴	19:00	日記書き		
21:20	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡川場村は5年生のセカンドスクールの実施地でもある。
- ・事前の学習として、3年生の時に、当時の4年生の「プレセカンドスクール報告会」を聞き、子供たちは、川場村でのおおよその活動内容を知った。
- ・2学期になり、活動の内容をしおりで確認した。また、活動の中から、自分がテーマとして調べていくものを決め、国語科の「アップとルーズで伝える」の学習と関連づけ、いつ、どこで写真を撮るか考えさせ、興味をもって参加できるようにした。
- ・班編成は、クラスごとに男子4つ、女子2つの生活班を決めた。活動班は1組男子と2組女子、2組男子と1組女子が1つのグループになるようにし、合計6つの班を編成した。(生活班とは別の編成)その後、生活班の中での係を決めたり、班の目標を決めたりして、より行動しやすいようにした。
- ・初めての宿泊行事であり、全体指導として、集団活動で大切なことを始め、部屋での過ごし方や、宿泊を伴う際のきまりなどの大切さを指導した。
- ・プレセカンドスクールから帰ってきてからは、3年生と保護者に向けて発表会を実施することも伝えた。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子30名 女子31名
計61名

② 事後の学習内容

- ・ 3日間の活動記録をもとに、一人一人自分がテーマにしたことを中心に国語で学習した「アップとルーズ」の視点でまとめた。その際は、活動中に自分たちで撮影した写真を使い、自分たちがメモしたことを中心にまとめた。
- ・ その後、課題ごとにグループ編成をし、発表会に向けて計画を立て、まとめる活動に取り組んだ。子供たちが決めた発表の仕方は、模造紙を用いたポスターセッション、紙芝居、模擬体験などであった。グループごとに、何を中心に紹介するのか、どの写真を使ったら内容が効果的に伝わるかなどを話し合い、役割分担してまとめることができた。
- ・ 12月には3年生と保護者に向けての報告会を実施し、自分たちが取り組んだ活動を分かりやすく報告する予定である。3年生にとってはプレセカンドスクールの事前学習となると同時に、学校全体としてセカンドスクールの在り方を3年生から5年生までの学年を通して系統付けて指導していけるように意図している。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川場村を歩こう(村内散策)

プレセカンドスクールの一番初めの活動として『村内散策』を行った。子供たちは、指導員と一緒にグループで地図を見ながらふじやまビレッジからホテルSLまで自分たちで歩いた。その間に、愛宕山と岩観音の2か所をチェックポイントとし、必ず立ち寄らせた。また、「川場村ならではのもの」、「秋を感じるもの」、「チェックポイントでの集合写真」など、必ず撮る写真を指定し、楽しみながら活動を行うことができた。子供たちは、途中で見つけた珍しいものや田畑の様子など様々な写真を撮り、川場村を存分に満喫することができた。5年生のセカンドスクールでは、目的地までの移動は自動車となるため、様々なものを見ながら村内をゆっくり歩いて回ることでできた今回の村内散策はとても有意義な活動であった。

2、虚空蔵山ハイキング(自然観察)

虚空蔵山の自然観察を行い、川場村の自然について学習した。2グループに分かれ、1グループに2人のインストラクターがつき、二方向から「虚空蔵山」の山頂を目指した。途中では、動植物の様子についての説明があり、自然の中での動植物の生き方について学ぶことができた。自分だけの宝物を探そうと、実際に多くの植物にじかに触れ、自然を身近に感じながら、積極的に活動に取り組むことができた。また、「けもの道」を探そうということで、道なき道へ分け入り、普段にはできない活動を経験することが



【けもの道を見つけよう】

できた。頂上の展望台からは川場村を一望することができた。

＜学習体験活動＞

1、星空の観察

星座早見でその日の星空の予習をした後、ホテルSLのそばにあるふれあい橋の下まで歩いて行き、秋の星座を観察した。当日は雲もなく、夏の大三角形や秋の四辺形、木星などたくさんの星座をはっきりと観察することができた。武蔵野の夜空とは比べものにならないほどの多くの星々に、子供たちからは大歓声が上がった。また、懐中電灯の灯りを一時消し、聞こえてくる川の流れや虫の声に耳をすませ、環境の違いを実感することができた。

2、酪農体験(乳搾り)

川田牧場で酪農についての学習を行った。牛舎には約90頭の牛がいて、実際に見る牛の大きさに子供たちは驚きの声を上げていた。酪農の話では、牛の胃袋が4つもあることや牛の消化の仕方など、興味をもって真剣にメモをとりながら聞いている姿が見られた。乳搾り体験では、牛の乳の温かさや乳首の感触などを自分の言葉で表現している子供が多くいた。また、牛にじかに触れることにより、命の大切さ、ぬくもりを感じ取ることができた。活動の最後には、殺菌済みの牛乳を味わい、そのおいしさに大喜びしていた。

3、農作業体験(りんご狩り)

宮田農園と関果樹園の2か所に分かれ、りんご狩り体験を行った。りんごの種類や歴史、川場村でりんご栽培が盛んなわけなどを話していただき、子供たちは熱心にメモを取っていた。その後もぎ方を教えてもらい、自分でおいしそうなりんごを選び、楽しんで活動を行うことができた。その場でりんご半分を試食することもでき、みずみずしい味を堪能することができた。さらに、古民家の中を見せていただくこともでき、農家の暮らしや、民家の作りなどにも興味をもって見学していた。



【おいしそうなりんごだな】

＜生活体験活動＞

多くの子供たちが、今回のプレセカンドスクールが初めての宿泊体験であったため、事前に、時刻を守ること、入浴の仕方、布団の上げ下ろしなど細かく指導した。現地では、生活指導員のきめ細かな指導のもと、自分たちの力で協力して行うことができた。3日間の生活を通し、協力することや自分のことは自分で行うことの大切さについて学ぶことができた。また、集合時刻に間に合うように早めに行動することも意識することができるようになってきた。

○児童の感想

- ・ふじやまビレジから歩いてくるときに、村が秋の色に染まっていました。川の音と木の葉がゆれる音、鳥の鳴き声が聞こえました。まるで三つの音が組み合わさって合奏のようでした。この組み合わせの音は、群馬でしか聞けないようなきれいな音でした。
- ・私はプレセカンドスクールに行っているいろいろな自然にふれたり、ちょう戦したりできて良かったです。ふとんを自分でしいたり、かたづけたりできたのでとてもよい体験になったと思

います。これをこれからの生活に生かしていきたいです。

- ・牛の乳しぼりをさせてもらいました。牛のお乳はとても熱かったです。ちょうしんきで牛の心ぞうの音も聞きました。心ぞうの音は「ドクン。ドクン。」と鳴っていました。
- ・ぼくは、プレセカンドスクールに行くまではきんちょうして不安でした。でも、行ってみたら、たくさんのきれいな星が見られたり、牛の乳しぼりをすることができたりして本当に楽しかったです。

○保護者の感想

- ・初めての宿泊をととても楽しみにしていたようです。荷物は早くから自分で作っていました。
- ・帰ってきてから、食事時のマナーに気を付けるようになったようです。指導員の先生方に、一人一人細かく指導していただき、ありがとうございました。
- ・いつもはあまり話をしない子が、帰ってきたらたくさん話をしてくれました。一つ一つの活動に発見があって、とても楽しかったようです。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の4年生の「総合的な学習の時間」の年間テーマは「環境を考えよう、自然に親しもう」となっている。プレセカンドスクールでは、「課題解決型学習」を意識し、自然について自ら課題を設定し、事前に本やインターネットを利用して自分のテーマに関する情報を集め、実際に現地で実体験をもとに理解を深めていった。さらに、同じテーマのグループごとに、わかったことをまとめ、3年生や保護者に向けて発表することにより、課題設定の力や、追究する力、まとめる力を育てていけるように活動を展開した。

○セカンドスクールとの関連について

本校では、プレセカンドスクールとセカンドスクールの実施地が同じである。これにより、子供たちは、長期滞在であるセカンドスクールでも同じ土地に宿泊できるという安心感をもつことができる。また、4年生は集団宿泊であるため、4年生時の宿泊の生活経験が民宿に分泊となる5年生になってからの自信となっていくと思われる。

さらに課題追究についても、4年生で共通体験したことが5年生になったときの一人一課題を設定する際の一つのきっかけとなるであろうと考える。

○次年度に向けての反省・課題

今年度でプレセカンドスクールも6年目となり、活動も精選され、定着してきている。どの活動にも子供たちは積極的に関わり、十分な満足感を感じることができた。さらに、来年度のセカンドスクールへの新たな期待ももつことができた。また、今年度は、天候にも恵まれ、児童全員が全日程、全活動に参加することができた。子供たちにとっては今回の活動を立派にやりとげたことが大きな自信となり、ひとまわりたくましくなった。

宿泊場所であるホテルS Lが大きく改装され、4年生の集団宿泊場所としては、児童管理の面から厳しい面もあった。今後の課題としては、プレセカンドスクールの宿泊場所としてふさわしい場所を、検討していく必要があることが挙げられる。

大野田小学校

9月30日～10月2日(2泊3日)

○日程表

9月30日(水)		10月1日(木)		10月2日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察・検温	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	首都高速(湾岸線)	7:00	朝食・活動の準備	7:00	朝食・荷物整理・部屋整理
9:45	うみほたる見学(トイレ休憩)	8:40	沖ノ島へ出発	8:40	房州うちわ作り始め
11:20	夕日海岸ホテル着(昼食)		(探検・ビーチコーミング)		(ホテル内)
13:00	砂山着(砂山登り・砂遊び)	12:35	宿舎に戻り昼食	11:00	房州うちわ作り終了
14:00	南房パラダイス見学	14:00	海の生き物の話(ホテル内)	11:30	ホテルで昼食
15:50	開校式・荷物整理・避難訓練		貝の標本作り	12:15	閉校式
19:00	夕食	15:40	入浴	12:50	ホテル出発
20:00	入浴	18:00	夕食	13:50	うみほたる着(トイレ休憩)
	1日の反省・記録	19:30	ウミホタル観察	15:30	学校着・解散式
21:00	荷物整理・班長会・健康観察	20:30	1日の反省・記録		
	就寝準備・消灯		荷物整理・班長会・健康観察		
		21:00	就寝準備・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・千葉県や館山市のようすについて
 - 千葉県や館山市の位置や土地のようす、歴史、特産物、産業などの特徴
 - 沖ノ島の土地のようす、自然のようす(植物・生き物など)
- ・房州うちわについて(夏休み中に下絵を描き、9月に図工でうちわの絵の作成を行った)
- ・東京湾の特色(アクアラインについて) ・首都高速道路、館山道などの交通について
- ・保健指導(体の成長の変化について、女子の初潮指導など)
- ・集団行動のルール・集団生活のマナーについて

② 事後の学習内容

- ・2泊3日の体験や課題学習について振り返り、作文、新聞などにまとめる。
- ・学習課題ごとにグループで体験活動のまとめを行い発表会を実施した。
- ・今の3年生に対してプレセカンドスクールについての説明会を実施した。

千葉県館山市

参加人数 男子79名 女子57名
計136名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、砂山登り・南房パラダイス見学

砂山でサンドスキーする予定であったが、朝から直前まで雨が降っていたため砂が湿っていてソリが滑らない状態であったので、ソリを使つてのサンドスキーでなく、巨大な砂山を登り自然の雄大さを感じ取りながら体を動かす活動を午後1時から50分間取った。午後2時から雨天時のプログラムである南房パラダイスを見学した。南国の植物や鳥、蝶など準備したワークシートに記入しながら観察をし、午後3時20分まで過ごした。



【南房パラダイス】

2、ビーチコーミング

2日目は午前中に沖ノ島でビーチコーミングを行った。午前8時20分、マイクロバス3台に分乗して出発。児童の人数が多いため、二度に分けて送迎することになった。

当日は天気にも恵まれ、遠くの海まで見ることができた。館山の海の特徴や海流の影響、サンゴの話など、現地の「海辺の鑑定団」のガイドの方の説明を聞きながら、沖ノ島の海辺を探索して歩いた。児童が次々と持ってくる海草や貝殻の名前を、「海辺の鑑定団」の方が丁寧に教えてくれ、興味をもたせてくれた。児童は砂浜に無数にある貝殻の中から、珍しいタカラ貝を探したり、潮だまりのカニを捕まえたりして、夢中になって活動を楽しんだ。ここで拾った貝殻などを家へのおみやげにと持って帰る児童も多かった。当日午後からの貝の標本作りにも



【沖ノ島ビーチコーミング】

この体験が生かされたようである。ただ、タカラ貝は、年々見つかりづらくなっているようで、3分の1くらいの児童しか見つけることができなかったようである。

また、戦時中砲台となったという岸壁や東京湾の出入り口として敵の飛行機を見張る場所としての役目や真っ暗な洞窟は、大変興味深く観察していた。ここでは地層もはっきりと見られ、6年生の理科の学習でも生かされることと思う。こうした体験は、児童の自然への好奇心を引き出し、意義ある体験活動となったようだ。ただし、せっかく海辺に来ているのだから、説明は最低限にして児童がなるべく多く実際に活動する時間を保証した方がよかったと思う。細かな説明は、午後の「海の生物の話」でもできるのではないかな。来年度は、その点も現地の方

と十分な打ち合わせをした方がよいと思われる。

3、ウミホタル観察

2日目の夜、ホテルの方が捕まえてきてくれたウミホタルの観察会を実施した。はじめに、ホテルの方がウミホタルについての生態や人間との関わりなどを説明してくれた後、部屋を暗くしてたくさんのウミホタルの入った水槽から網ですくいすり合わせると、おびただしい数のウミホタルが一斉に美しい青色に発光し、子どもたちはその神秘的な光景に歓声をあげ、とても感動していた。ウミホタルを学習課題にして研究していた子も多かったが、実際に発光の様子を見ることができ、貴重な体験となった。

<学習体験活動>

1、アクアライン「うみほたる」見学

アクアラインについては事前にある程度学習して行った。海底トンネルと海上の自動車道の違いを目で見て比較したり、資料館「海めがね」で、トンネル内の換気の工夫やシールドマシンについて模型などで確かめたりすることができた。雨が降り続き、「うみほたる」から東京湾の様子などが観察できなかったのが残念であった。

2、海の生物の話と貝の標本作り

2日目午後、ホテルに戻り、昼食後に海辺の鑑定団の方による、海の生き物の話と貝殻の標本作りを実施した。児童は、午前中自分達が拾ったものから各班一つずつ紹介し名前など説明を受けた。また、貝殻の標本作りは、説明がとても分かりやすく、どの子もすばらしい標本を作り、その活動を通して、貝の名前をすぐに覚えてしまう児童が多かった。そうした説明の中で、人間の活動と海との関係にも触れ、環境教育の一環としても意味のある内容であった。

<生活体験活動>

1、房州うちわ作り

房州うちわ作りは現地のうちわ職人の方に指導していただいた。児童があらかじめ学校で仕上げてきた表裏2枚の絵を使って作成し、一人ひとりが自分のうちわを自分の手で仕上げることができた。竹に糊を塗り竹の骨の間隔を調節する。竹の骨に絵を貼る。乾いたらへりに細い薄紙を貼って仕上げる。全24工程のうちの3工程だけであったが、なかなか難しく、手作りの大変さや伝統工芸のすばらしさを学ぶことができた。

○児童の感想

- ・ビーチコーミングでは、とても苦労したけど、タカラ貝とコトコト貝を拾えて良かったです。貝の標本作りでは、よい作品が作れてとても満足しました。記念に飾っています。
- ・ウミホタルが青く光っているところは本当にきれいでした。あんなきれいなものが年々少なくなっているのは残念です。海を汚さないでほしいです。
- ・千葉県伝統的工芸品である房州うちわを、実際に作ることができてとてもうれしかったで

す。来年の夏はたくさん使いたいです。

- ・サンドスキーはできなかったですが、砂山に登れてよかったです。でも、滑りたかったです。

○保護者の感想

- ・2泊3日、体調を崩すことなく元気に過ごすことができたようです。雨で予定変更などがあり残念に思うこともあったようですが、クラスの友だちと一緒に色々な体験ができ楽しかったそうです。班のお友だちとくっつくようにして寝たり、それぞれの係を頑張ったり、お互いに尊重し合う気持ちが育まれたように思われます。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期に館山の自然や文化について簡単に調査し、それぞれが自らの課題を決めた。
- ・館山への交通、館山の自然、アクアライン等については、事前に学習して臨んだ。
- ・夏休みに館山について調べる活動をし、行く前に自由研究の発表会を行った。
- ・プレセカンド後に作文にまとめ、課題ごとのグループでまとめの発表会を実施した。
- ・『3年生に伝えよう』として、プレセカンドスクールの発表会を行った。

○セカンドスクールとの関連について

- ・今回の自らの課題について下調べをし、現地で調査しまとめるという体験は、セカンドスクールでも十分に生かされると考える。
- ・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子どもたちの自信と来年への期待につながった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・引率教員が事前に引き継ぎをしっかりと行い、早めに実地踏査をして計画を立てていく。
- ・雨天時プログラムを柔軟に実施するための予算措置を依頼していく。
- ・児童への指導内容に関して現地指導員との打ち合わせを十分に行っていく。

境南小学校

10月29日～10月30日(1泊2日)

※インフルエンザの影響で当初の予定より2週間遅らせ、1泊2日に短縮して実施した。

○日程表

10月29日(木)		10月30日(金)	
8:10	学校集合・出発式	6:30	起床、検温、洗顔
8:30	学校出発	7:00	朝の会
9:45	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食
10:30	ビジターセンター見学	8:30	片付け、清掃
11:30	富士五合目着、昼食	9:00	閉校式、宿舎発
12:30	五合目周辺トレッキング	10:30	ぶどう園着、農業体験
14:30	スバルライン駐車場発	12:30	昼食
15:30	宿舎着、開校式、荷物整理、避難訓練	13:45	ぶどう園出発
16:30	入浴	14:30	談合坂SA(トイレ休憩)
18:30	夕食	15:30	学校着、帰校式
19:30	絵手紙かき		
20:30	健康観察		
21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・初めての宿泊体験に向け、集団行動のルール・集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、きちんと整列することや一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・係ごとに必要なルールやマナーを話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、全体で発表し、実行できるようにした。
- ・自主的に活動できるよう、班長を中心に児童が考えたスローガン「努力と思いやりで笑顔の花をさかせよう!」を設定した。これをプレセカンドスクールの合い言葉とし、めあてが達成できるように行動することとした。
- ・総合的な学習の時間に現地に関する調べ学習を行った。「富士山」「富士五湖」「雲」「石」「動植物」「ぶどう」「観光」「交通」の8つテーマから選択し、課題別の学習グループを作った。事前の調べ学習では、各自これから詳しく調べてみたいことをインターネットや書籍などから情報収集をした。そして、分かったことやさらに調べてみたいことをグループで話し合い、現地での活動内容を確認した。
- ・体の成長と変化、女子の初潮など第二次性徴について保健指導を実施した。

山梨県南都留郡富士河口湖町

参加人数 男子43名 女子45名
計88名

② 事後の学習内容

- ・ 1泊2日の宿泊体験や自然体験、友達との交流など、プレセカンドスクールの思い出を振り返り、作文にまとめた。
- ・ 五合目では天気恵まれ富士山の山頂を目の前で見ることができ、児童にとって素晴らしい思い出の一つとなった。そこで帰校後、グループごとに思い描いた富士山をちぎり絵で表現する活動を行った。折り紙の配色を考えたり、河口湖に映る「逆さ富士」を表現したりするなど様々な工夫が見られた。完成後、並べて掲示してみるとそれぞれのグループの富士山に個性が見られ、全体として面白味のある作品となった。
- ・ 学習発表会に向け、課題別の学習グループごとに体験活動のまとめを行った。まず、各自の課題について現地で分かったこと、感じたこと、さらに調べてみたいことなどをグループで報告した。次に発表内容を明確にし、絵や図に表したり、発表原稿を考えたりした。そして、自分の伝えたいことを画用紙一枚にまとめ、グループごとに発表練習をし、互いにアドバイスをし合った。12月中旬に学習発表会を行う予定である。
- ・ 3学期、次年度に体験する3年生に対して、プレセカンドスクールの宿泊体験の様子や自然体験の素晴らしさなどを伝える会を実施する予定である。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、トレッキング

富士山五合目で南アルプスの山々の景色を見ながら昼食を取り、その後、五合目周辺（御中道コース）のトレッキングを行った。課題別の学習に役立つよう、カメラ係にデジタルカメラ1台を持たせ、学習グループで行動した。

雲グループは、山頂や周辺に広がる雲の形を見比べたり、天気占いの看板を見付けたりしていた。石グループは、面白い形の火山岩を熱心に見たり触ったりしていた。また、動植物グループは、厳しい自然環境の中で枝が一方方向に伸びているカラマ



【御中道でのトレッキング】

ツやダケカンバに注目したり、鳥のさえずりに耳をすましたりしていた。事前学習で現地での学習について話し合っていたため、目的をもって活動することができた。

アップダウンの少ないコースを1時間程歩いたところで休憩をした。それまでかかっていた雲が消えて山頂がくっきり見えたため、「すごい」「きれい」などの声が上がった。また、晴れ間が出て石が温まり、「暖かくて気持ちいい」と地面に寝転ぶ児童もいた。眼下に広がる雲海、雪景色の美しい山頂など、富士山の自然にふれ十分満足できたようである。

終盤で下る階段は、小石があって滑りやすかった。「足元を見て」「ゆっくり」など声をかけ合って気を付けて歩き、けがすることなく安全にトレッキングを終えることができた。

＜農業体験活動＞

1、ぶどう園農業体験

ぶどう園に到着し、現地の方の説明を聞いた。児童は、ぶどうの種類の多さ、周囲に広がるぶどう園の広大さに驚いていた。まず、収穫体験をした。二人一組になり、はさみで枝を切る仕事、切ったぶどうを両手で受け取る仕事に分かれて行った。現地の方の指導のもと、一つ一つの実を大切に扱っていた。また、一本の木からいろいろな方向に枝がのび、そこにたくさんのぶどうが付いていることに気付き、数える児童もいた。

次に、①「ぶどうの木の皮むき」②「実をカバーするかさ拭き」③「草むしり」の3つの体験を学級でローテーションしながら行った。活動前、作業の手順や方法だけでなく、虫から木を守るために皮をむいている等、それぞれの体験の意味を現地の方から説明してもらった。意味を理解した上で行ったこともあり、児童は意欲的に作業を進め、各体験時間の二十分間を短く感じたようだった。作業終了後、「みんなで一時間かけてかさ拭きをしたけれど、実際は一人で三日間し続けて終われる」という話があった。これら現地の方の話や実際の体験を通して働いている方の努力や食べ物の大切さに気付くことができ、大変有意義な活動であった。



【ぶどう園での農業体験】

＜学習体験活動＞

1、絵手紙かき

富士山のトレッキングを行った一日目の夕食後、「今日心に残ったことを手紙で伝えよう」と声をかけ、絵手紙かきを行った。富士山を題材にする児童が多く、葉書いっぱい絵の具で大きな絵を描いていた。中には、「赤富士」と題し、太陽の光を浴びて輝く富士山を表現する作品もあった。絵に添える言葉は、筆ペンで書くことにした。トレッキング中に見付けたつららを「氷のきば」と名付けるなど、味のあるものに仕上がった。

○児童の感想

- ・富士山では、雲を上から見下ろせてうれしかった。もっと高く登ってみたい。
- ・富士山の石は、穴がいっぱいあいていて持ってみると軽くて驚いた。
- ・農業体験では、自分の身長ぐらいのぶどうの木の皮がむけて楽しかった。
- ・ぶどう園の人は、これだけの仕事を少ない人数でやっているで大変だと思った。
- ・整理整頓や時間を守って行動することをがんばり、友達と楽しくできた。
- ・普段の生活から離れ、自分のことは自分でしたり、みんなで協力したりすることができた。

○保護者の感想

- ・初めて体験したことばかりでとても為になったようです。「大変かな。」と思うようなことでも友達と一緒に楽しく乗り越えることができ、あらためて実際に体験することの大切さを感じました。
- ・「とても楽しかった。」と言って帰って来ました。特に富士山の美しさが印象に深かったらしく、詳しく話をしてくれました。
- ・1泊でしたが、友達と過ごしたことで少し自信が付いてきたようです。

○総合的な学習の時間との関連について

1学期に「給食から見える世界」の単元を学習し、食の大切さについて学んだ。ぶどう園の農業体験では、実際に作業を体験したり、現地の方の話を聞いたりして食べ物の大切さを実感することができた。作業の後に食べたぶどうの味は格別だったようである。また、プレセカンドスクールの学習課題を決め、自らの力で課題を解決しようとした態度を今後の学習につなげていきたい。

○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールで集団生活をし、宿泊を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めることを念頭に置いて計画・実施した。事前指導では、集団生活の中で全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことは何かを考えさせ、自分たちで約束を決め、実行できるように促した。また、課題別のグループに分かれ、さらにその中から一人一人が自分の課題をもち、追究する学習を行った。この学習で学んだ課題の決め方、調べ方、分かりやすく伝える方法などは、セカンドスクールで取り組むフィールドワークに生かされるものであると考える。

○次年度に向けての反省・課題

- ・五合目でのトレッキングは、富士山の自然とふれあい、景色を満喫できる貴重な体験であったが、風が強く寒かった。この時期に実施する時には、十分な防寒対策が必要である
- ・インフルエンザの影響で延期となり、泊数を一泊二日と短縮しての実施であったが、4年生にとっては、自然体験としても、生活訓練としても十分な内容であったと考えている。

本宿小学校

6月10日～6月12日(2泊3日)

○日程表

6月10日(水)		6月11日(木)		6月12日(金)	
8:00	学校出発	6:30	気床・健康観察・洗面	6:30	気床・健康観察・洗面
10:00	上里SA(トイレ休憩)	7:00	朝食・清掃・寝具整理	7:00	朝食・清掃・寝具整理
11:30	八海山到着・開校式	8:30	坂戸山登山	8:00	八海山ロープウェイ
12:00	避難訓練・昼食	11:30	山頂		温度調べ・地形鳥瞰
13:00	田植え体験	12:30	昼食	9:30	山菜狩り
		13:30	ソバ打ち体験	11:30	昼食
16:00	プレセカンドの過ごし方	16:00	荷物整理	12:30	閉校式
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	14:30	上里SA(トイレ休憩)
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	学校到着
19:00	天体観測・入浴	19:00	入浴		
20:00	民宿の方との交流会	20:00	民宿の方とのお別れ会		
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

南魚沼の土地・地形・気候・農業(米作り)・生物・歴史・星座などについて子ども一人一人が「学習の課題」を持ち、本や資料、インターネットなどで調べた。そして、一人一人が自分のレポートにメモして現地に臨んだ。たとえば、米作りについて調べたグループは、南魚沼市はもとは養蚕がさかんだったことや、この土地がおいしい米作りに適していることなどを調べるとともに、農家の主な仕事や農家の方に聞いてみたいことなどを具体的に準備し、農家のおじさんに聞き取り調査できるようにした。

また、「生活の課題」を考え、各係で役割分担やマナーなどについて、子どもたちで調べたり考えたりしながら、事前に「しおりづくり」をした。そして、そのしおりを現地で役立てた。たとえば「布団のたたみ方」を調べたグループでは、正しい布団のたたみ方をインターネットで調べて、現地ですぐ実践できるようにした。

今年度は、2つのペンションで2つのクラスを解体した生活班のグループを作り、児童相互の交流も深められるように計画した。

新潟県南魚沼市(六日町・八海山地区)

参加人数 男子30名 女子18名
計48名

② 事後の学習内容

それぞれの学習班で課題別に調べたことを、模造紙などにまとめた。そして「総合的な学習の時間」を使って、来年度南魚沼市に行く3年生を招待して、課題別に紹介するというねらいで、ポスターセッションをした。田植えについてまとめたグループでは、具体的な田植えの仕方を、模型を作ってやってみせながら説明するなど、様々な工夫をしながら発表することができた。なお、この発表会には保護者や地域の方々も多く参加していただいた。また、道德の時間を使ってお世話になった宿の方へ、感謝の気持ちを伝えるメッセージを送った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、坂戸山登山

あいにく雨予報だったが、薄日も差す天気だったので予定通りふもとを出発した。なお、道案内として地元のボランティアや観光協会の方が4人ほど同行してくださった。上杉景勝、直江兼続やその家臣たちの屋敷跡などの史跡を通り過ぎて、御館を横に見ながら一本杉で一回目の休憩をした。ここまで20分は軽いハイキングコースである。子どもたちは、ちょうど放映中の大河ドラマ「天地人」の舞台とあって、かなりの関心を見せ、上杉景勝、直江兼続の生誕碑などを興味深く見学した。また教師が歴史的な解説も適宜行った。小休憩をとりながら50分ほど登り、桃の木平で二回目の休憩をとった。次第に小さくなっていく町並みに「家や自動車がおもしろいに見える。」と子どもたちは歓喜の声をあげていた。休憩後歩くこと10分、実城といわれる頂上に着いた。ここからの眺めはすばらしく360度が鳥瞰できる。子どもたちは、山や盆地、川など地形の変化を目の前で観察した。説明が終わり、記念撮影をしたところで雨がふり始めた。そのため予定を変更し、すぐに下山することにした。下山道の薬師尾根コースには、一か所くさり場がある。子どもたちの冒険心を誘う場所ではあるが、安全面を重視して教師や指導者4名が補助し何事もなく無事下山した。

2、山菜狩り体験

八海山ロープウェイの乗り場付近は、格好の山菜狩りの場所である。地元の方々4名の先導で、山菜のみつけ方やある場所などに案内していただき山菜狩りをした。教師の事前の予想に反して、一番楽しかった活動に山菜狩りをあげる児童が多く、武蔵野に帰ったあとも「この草は食べられる」などと興味・関心を深めた児童も見られた。

3、田んぼでの自然とのふれあい

蛙をみつけたり、蛇をみつけたり、シロツメクサをつんでリースを作ったり、様々な自然体験をした。これらは活動の合間に児童をペンションの横の田に連れ出すことにより自然とのふれあいをさせたものである。子どもたちは「ここは空気が甘い」「風がひんやりする」「山の景色はころころ変わる」「指が切れるぐらい水が冷たい。」など自然を体感したようである。

4、星座観察

宿のそばの日大セミナーハウスで望遠鏡による天体観測を予定していたが1日目は曇りで観察はできなかった。二日目は満天の星座を真っ暗な野外で観察し子どもたちは感動した。

<学習体験活動>

1、田植え体験

南に子どもたちが登山する坂戸山、東にペンションのある八海山という絶妙のロケーションの田を「本宿小実習田」として提供していただいた。「本宿小実習田」と書いた立札のある田の前で最初に農家の方に、稲の持ち方や移動の仕方など田植えのこつを教わった。田んぼに裸足で入った子どもたちは、「土が温かくぬるぬるする」「足が土にすいつく」「蛙がいた」など大騒ぎで田植えに熱心に取り組んだ。 【田植えをする子どもたち】



終了後田のあぜで、子どもたちより農家の方に米作りの工夫や努力について、聞き取り調査した。子どもたちは、毎日稲の生長を気にかけている農家の人の生の言葉に心を打たれた。

2、そば打ち体験

宿のそばの「レイホー八海」という体験施設の体育館でまず地元の達人からそば打ちの方法を教えていただいた。子どもたちは、あざやかな手さばきに息をひそめてみとれていた。続いて、8つのグループに分かれて、地元の方にそばうちの指導をしていただいた。南魚沼のそばは、「ふのり」でつなぐ独特のものである。初めてそばうちをする児童が大部分のため、おじいちゃんおばあちゃんと会話しながら、そばをうっていった。予想以上にそばのこしが強いために格闘する児童や、顔を真っ白にしながら麺棒を転がす児童もいた。冷蔵庫に入れて、翌日の山菜狩りでとった山菜のてんぷらとともに、グループ別に自分たちがうったそばを食べた。

3、地形鳥瞰体験

八海山はかなりの標高差があるため、ふもととロープウェイの終点とでは、かなり体感温度が違う。そこでグループごとに温度計を持ってふもととロープウェイの終点で計測させた。子どもたちは4度近く違う気温に驚いていた。標高差で同じ日でも温度が違うことを実感できたことは大きな成果だった。またロープウェイの終点の展望台からは見渡す限りの南魚沼盆地や上越国境の山々が見え「先生、地図帳みたいに見えるね。」と子どもたちは感動していた。

<交流体験活動>

1、民宿の方・現地の方とのふれあい

児童の「集う」力を育てるために、夜はお父さんお母さんとふれあう時間を大切にしたい。まず、初日の夕方に、布団のたたみ方や、風呂の入り方、整理整頓など集団生活の基礎的マナーを教師が指導した。二つのペンションともに、食堂が談話室も兼ねているのでそこで、お父さん、お母さんとのふれあいをした。一日目は、自己紹介やお父さん、お母さんに質問したいことや、お話をうかがうなど楽しい時を過ごした。ペンションによっては、土地に伝わる怖い



【民宿の方々とのふれあい】

話をしてもらったり、雪国の様子などを話してもらった。二日目は、お世話になった民宿の方や指導員へのお礼の会を企画した。お父さん、お母さんをお招きしてどのグループも楽しいひとときを過ごすことができた。

○児童の感想

- ・田植えでは、初めて泥に入りぐによぐによで気持ち悪かったです。でもやっているうちに楽しくなってきました。
- ・宿で夕食の準備をみんなですっていると、お父さんとお母さんに「ありがとう。みんなのおかげですぐに準備できましたよ。」と言われてとてもうれしかったです。

○保護者の感想

- ・東京は雨模様だったのに、新潟はほとんど晴れたというので驚きました。子どもは田植えや山登りを楽しみにしていたので、どちらも体験できたことがよほどうれしかったようで、家でも田植えのやり方を教えてくれました。
- ・山菜とりで、新鮮な山菜をとっておみやげにしてくれたので家でてんぷらにして食べたらとてもおいしく、味がちがうと子どもが言っていました。

○総合的な学習の時間との関連について

事前の学習では南魚沼という地域に期待を持たせるとともに児童一人一人に「学習の課題」をグループ毎に「生活の課題」を持たせた。事後の学習では、来年度南魚沼に行く3年生に体験したことを発表した。また、ペンションのお母さん、お父さんへの御礼を書く活動も行った。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールに向けて、集団生活の仕方や稲作の作業などを調べさせた。また、民宿の方との交流会やお礼の会の運営の仕方なども練習した。さらに2つの民宿に分泊形式で指導員を養成し、本部形式の6つの民宿に分泊するセカンドスクールの指導に活かせるようにした。

○次年度に向けての反省・課題

- ・本年度よりプレセカンドスクールの実施地を長野県飯山市信濃平から、新潟県南魚沼市六日町・八海山に変更した。このため、現地までの移動時間が1時間以上短縮され、途中休憩も1回で済むようになり、車酔いの心配がほとんどなくなった。また、この分現地での活動に余裕が生まれ、子どもを追いたてて活動する必要がなくなった。
- ・宿泊施設の清掃が行き届いていたため毎年課題だったぜんそくもほとんど発生しなかった。
- ・昨年度までは、4年生で稲刈り、5年生で田植えという不自然な組み合わせだったので、本年度から4年生で田植え、5年生で稲刈りと言う自然な流れに改善した。
- ・当初の予定では二日目の午後に山菜狩り、三日目の午前中にそば打ちを計画していたが、雨のため入れ替えた。結果的には入れ替えた予定の方が移動時間の無駄がないことがわかったので、来年度は当初より入れ替えた予定で計画したい。
- ・二つの宿に今回初めて教員が別々に宿泊したので、指導員や児童を指導する上で良かった。

千川小学校

10月7日～10月9日(2泊3日)

○日程表

10月7日(水)		10月8日(木)		10月9日(金)	
7:40	学校出発	8:30	グループごとに問題作り	8:30	宿舎出発
10:00	フォレストイングコテージ着 森を守る講話を聞く 林業体験学習 昼食	9:00	宿舎内オリエンテーリング	9:00	こんにやく工場見学 シクラメン栽培ハウス見学 郷土資料館見学
11:30		11:30	弘沢の滝見学・昼食	12:30	昼食
13:00	水生昆虫の話	14:30	木工教室・森林館見学		バス内で感想交流
16:00	民宿着	16:00		16:00	学校着・解散
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

○プレセカンドスクールでは何を学習するか、児童に分かることばでねらいを設定し、各自の目標をもたせた。

- ・山地でのくらしを学ぶ。
- ・協力して、交友関係を深める。
- ・生活のきまりを守る。(あいさつ、時間、マナー)

○写真等の資料から気付いたことや疑問点をもとに学習課題を立てて、社会科を中心に学習を進めた。自分たちがこれから訪れる場所であるということが、児童の学習意欲を喚起し、積極的に調べる姿が見られた。

○社会科の学習内容以外の、檜原村の自然等については総合的な学習の時間を活用して学習した。内容によって扱いを分けたことが、教科の内容の理解の確実な定着につながった。

○集団宿泊行事を進める学習

- ・班で役割分担をし、班内で分担した役割の準備活動を進めた。
- ・宿舎で生活する際のマナーについて話し合い、実行に向けて取り組んだ。
- ・友達といっしょに生活することの意味と、心配りをしあわなくてはならないことについて話し合い、各自が目標をもって臨めるようにした。

○指導員との顔合わせ

- ・指導員は児童にとっては先生であること、困ったときや相談したいときにはどの方へ声をかければよいか、具体的な場面を想定して理解できるようにした。

東京都檜原村

参加人数 男子41名 女子27名
計68名

② 事後の学習の内容

「檜原村で学ぼう」

- ・ プレセカンドスクールで学んだ中からもっと深く調べてみたいことを一つ選び、資料などを使って調べてまとめ、学級ごとに発表した。
- ・ 発表内容は自分たちで選んだ。

おもなテーマ「こんにゃく」「シクラメン」「水生昆虫」「払沢の滝」「木工工作」

「林業体験」「宿舎の紹介」「檜原村の芸能」「檜原村の自然」など

- ・ 発表は、一人ずつが、発表した後質問を受ける形で進めた。自分が関心をもっている内容だけに自信をもって発表している児童が多く見受けられた。また、聞いている児童も、進んで質問したりするためになることはメモをとりながら聞いたりなど、積極的に檜原村を知ろうとする意欲が感じられた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、水生昆虫の話

台風の影響で残念ながら実際に川へ入っての水生昆虫探しや観察はできなかった。その代わりに講師の先生がたくさんの資料を用意してくださり水生昆虫の種類やその様子を資料で分かりやすく説明してくださった。また、近くでとれる木の葉や木のみをたくさん持ってきて、葉っぱを鳴らす遊び方や草笛のやり方などを教えてくださった。児童は、初めはおそるおそる葉っぱを手にとってしたが、うまく音が出るととても喜び、何度も鳴らしていた。



【草笛は難しいな、どうやって吹くのかな】

2、払沢の滝の見学

台風のため、ハイキングは中止し、雨がやんだ後に払沢の滝へバスで向かった。雨上がりでいつもの何十倍もの水量の滝は、それは圧巻な姿を私たちに見せてくれ、その水流の激しさと周りの緑の美しさと胸一杯に吸った爽やかな空気に、檜原村の自然の雄大さを感じとることができた。



【豊富な水量にびっくりしました！】

<学習体験活動>

1、山地の特色を活かした産業を学ぶ。

コンニャク工場を見学し、檜原村の特色である水はけのよい土地を生かして、コンニャク芋を育て、生の練り芋を使ってコンニャクを作っていることを学んだ。コンニャク芋の育て方の苦勞を知ったり、コンニャクに隠された工夫を知ったりすることができた。またシクラメン栽培ハウスでは、どうして檜原村でシクラメンが多く栽培されているのかなど、事前学習のデータではわかりえなかったことを実際に尋ねることで理解を深めることができた。



【こんにゃくを美味しくいただきました】

2、林業の重要さを知り、体験を通して理解を深める。

フォレストイングコテージにて、林業家の方から何のために林業を行うのかを写真などのパネルを見せながら説明していただいた。事前学習では、林業がどのようなことをするのか学習していたが、その意義や必要性までは学習していなかったもので、意欲的に聞く姿が見られた。特に、日本の森林のほとんどが人工林であること、森林は手入れをしなくては荒れていくことについては、児童にとっては驚きの内容であったようだ。その後、



【力を合わせてロープを引き、木を倒しました】

実際に間伐の林業体験をさせてもらった。全体を6グループに分け、それぞれに指導者がついたため、一人一人が実際に活動する時間を多くもつことができた。木が倒れる方向を導くためのロープがけに楽しさを感じたと報告する児童が多かった。自分たちが実際に活動した後を見ることによって、光の差し込み方が確実に変化したことを実感でき、「森を育てる」という意識を体得することができた。

3、郷土資料館見学で檜原村の歴史や四季の自然の様子を知る。

郷土資料館では、DVD視聴により檜原村の秋から冬にかけての自然や生活の様子を知ることができた。また、館内での見学では、コーナーごとに歴史や芸能、自然などについて自分の興味のあるところを充分に見て回ることができ、さらに理解が深まった。

4、図画工作科で学習したことを生かして、オリジナルのキーホルダーを作成する。

都民の森で、間伐材を利用したキーホルダーを制作した。学校でベニヤ板を電動のこぎりでカットし、造形遊びをする学習をしてきたことが生かされ、ほとんどの児童がスムーズに作り上げることができた。切った後のキーホルダーに丁寧にやすりをかける姿からは、物づくりの喜びを十分に感じていることを見て取ることができた。

<生活体験活動>

- ・各グループの中で、仕事の役割分担をし、食事の補助や整頓、風呂場の片づけなど、一人ひとりが責任をもって自分の任された仕事に取り組むことができた。
- ・2日目に、台風のため、急遽、室内オリエンテーリングを行うことにした。各グループが1問ずつ問題を作成し、それを宿舎内に貼ってグループごとに問題を解きながら回った。グループの皆で協力して答えを相談している姿が随所で見られた。

○ 児童の感想

- ・ 払沢の滝は、迫力があってすごかった。
- ・ 木を切るのは初めてだった。みんなで力を合わせてロープを引っ張り、木が倒れた時は嬉しかった。
- ・ プレセカンドスクールの3日間で、家でできなかったことができるようになった。
- ・ 班のみんながフォローしてくれたおかげで、3日間が楽しく過ごせた。
- ・ 3日間、いつもより友達と仲良くできたことがよかった。
- ・ 係の仕事は、とても緊張したが、しっかりやることができた。
- ・ 一人で泊まるのは初めてだったが、友達と一緒にだったからさびしくなかった。

○保護者の感想

- ・ 普段無口な子が帰ってきて機関銃のように話してくれたので、充実していたのだと思った。
- ・ 一人で泊まらせるのは初めてだったので心配だったが、楽しかったと聞き、ほっとした。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・ 山地の暮らしについて、児童が知りたいと思うことと、社会科の学習内容とは必ずしも一致しない。社会科と総合的な学習の時間を関連させて事前学習を組んだことによって、児童の課題意識に沿った学習を展開することができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・ セカンドスクールでは、いくつかの課題の中から選ぶため、個々に行程が異なってくる。プレセカンドスクールで、同じ活動ではあるが、課題をもって追究していく経験を積むことによって、セカンドスクールにおいて課題を選んだり、追究したりする姿勢を養っておきたい。
- ・ セカンドスクールの宿泊地である少年自然の家では、民宿以上に生活の規則が要求される。4年生で、基礎的な集団生活を学び、生活習慣、マナーを見直すことによって、セカンドスクールまでに改善を図ることができると思う。

○次年度に向けての反省・課題

- ・ 4年生は、初めての宿泊体験ということで、今年度は宿泊場所を一カ所にして行った。児童の様子もよく把握できるし、ちょっとした対応も迅速に行えたのでとてもよかったと思う。学年全員を収容する宿舎は、ここしかないが、次年度も部屋割りなどの工夫をしてこの宿舎を利用したい。
- ・ 雨天対策で考えていたプログラムは、大雨が降ると周遊道路が通行止めとなり行えないことが分かった。周遊道路を使わない雨天プログラムを新たに開発していく必要があると思われる。また、ここでは、どうしても晴天の場合にのみ生かされるプログラムが多いのが特徴である。今回の様な雨天時には全く使えなくなってしまうので、室内を生かした学習内容を組んだプログラムを探す必要がある。檜原村のみでなく、もう少し地域を広げて考えていくことが望ましい。

井之頭小学校

10月21日～10月23日(2泊3日)

○日程表

10月21日(水)		10月22日(木)		10月23日(金)	
8:00	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:30	昼食	6:30	朝の会	6:30	朝の会
12:00	尾瀬わくわく体験郷到着	6:45	朝食	7:00	朝食
12:15	開校式	7:00	出発準備	7:45	荷物最終チェック
12:30	昼食	8:20	水源見学	9:00	野菜畑見学
13:00	豆腐・こんにゃく作り開始	9:30	水源見学終	10:30	昼食作り
15:40	豆腐・こんにゃく作り終	10:00	植物採集	11:45	昼食
16:15	尾瀬わくわく体験郷出発	11:30	キャンプ場集合	12:00	お別れの集い
16:30	各民宿に行く	11:35	昼食	12:40	金井荘前の広場に集合
17:00	健康チェック	12:30	リース作り開始	12:50	閉校式
	学習のまとめ	13:50	リース作り終	13:20	バス乗車、片品村出発
18:30	夕食	14:20	りんご狩り	16:30	学校到着 到着式
19:30	宿の方とお話	15:10	りんご狩り終	17:00	解散
20:00	入浴	17:00	健康チェック		
20:30	学習のまとめ	17:30	夕食		
21:00	就寝準備	19:00	宿の方へ手紙を書く		
21:30	消灯	19:30	星空観察		
		20:00	入浴		
		20:30	学習のまとめ		
		21:00	就寝準備		
		21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期の理科で「星の学習」を行い、星座早見盤の使い方、星座の位置や、名称を学習した。
- ・現地の課題別学習に向け、課題を選択させ、インターネットやパンフレット、書籍などを活用し、調べ学習を行った。課題の内容は、①片品村のりんごについて②片品村の水について③豆腐・こんにゃく作りについてなどである。
- ・社会科で「水」の学習をした時に水源林について学習し、利根川上流の水源について触れた。
- ・事前に民宿の方への質問内容を考えさせ、課題意識を明確にした。

群馬県利根郡片品村

参加人数 男子31女子25名
計56名

② 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールの体験を作文にまとめた。
- ・ 事前に調べたことや、現地で学んだことを模造紙や画用紙にまとめ、次年度体験する予定の3年生にむけてプレセカンドスクールのよさや、各自が学んだことを発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、植物採集

民宿ごとに分かれ、リース作りに使うための植物を採集した。子どもたちが各々自分のリースを飾り付けるために、どんぐりや木の実などを一生懸命探していた。紅葉の美しい里山の景色を堪能しながら子供たちは楽しそうに過ごしていた。

2、りんご狩り

日本で一番標高の高いりんご園でりんご狩りを行った。子供たちがりんごを選んで表情はとても生き生きしたものであった。3個収穫し、1つはその場で丸かじりし、残りはジャム作りに使用した。りんごの蜜の多さに感動している児童が大勢いた。

<学習体験活動>

1、片品川水源見学

社会科の時間で「水源林」について学んだ。片品は太平洋側への分水嶺である。したがって、水源について課題を設定した児童も多く、とても楽しみにしていた様子であった。水源へは人の入らない林道さえあった。苦勞しながら歩き、水源にたどり着いた時、多くの子供たちが達成感を感じていた。実際に利根川として太平洋にそそぐ最初のわき水を飲むことが出来た。わき水のおいしさ、冷たさと長い水の行方を感じ、感嘆していた。

2、豆腐・こんにゃく作り体験

現地講師の指導で、豆腐・こんにゃく作りを行った。今年度は、豆腐を作る児童とこんにゃくを作る児童に分かれ、体験活動を行った。豆腐とこんにゃくの作り方は、ほぼ全ての児童が初めて学び、とても意欲的に取り組んでいた。2つの課題に分かれたために、お互いの進み具合を確認したり、作り方を教え合ったりという学び合いの姿が見られ、充実した学習ができた。



【豆腐・こんにゃく作り体験】

3、リース作り体験

現地講師の指導で、あけびのつる、木の実、落ち葉、用意して下さったドライフラワーなどを用い、リース作りを行った。作り方を教えていただいた後は、各自熱心に自分のリースに様々な工夫を加えていた。途中うまく作れず悩んでいる児童を進んで手伝う児童も見られ、児童相互の関わり合いが深まった。



【リース作り体験】

4、野菜畑見学と野菜収穫体験

それぞれの宿の畑で、野菜畑の見学と野菜収穫体験を行った。ほとんどの児童が白菜のような大きな野菜を収穫することが初めてであり、その大きさや、重さに驚いた様子であった。また、自分で収穫した野菜を昼食の時に自分たちで調理し、すいとんにして食べた。収穫の苦労と喜びを感じ取れたようであった。

<生活体験活動>

1、ジャム作り

各宿の指導で、「りんごジャム作り」を行った。児童の作文に「甘くておいしいりんごジャムが心に残った」という記述が多く見られ、子供たちの印象にとっても残ったようであった。出来上がったジャムは少しその場で食べ、東京にお土産として持ち帰る。自分のためだけでなく、家族や教師へのお土産として一生懸命作っている児童の姿が印象的であった。

2、昼食作り

それぞれの宿ごとに収穫した野菜を使って、すいとん作りを行った。野菜を包丁で切ったり、ゆでたりすることをぎこちないながらも楽しんで取り組むことが出来ていた。自分たちで作った料理はとてもおいしかったという意見が多く、東京に戻っても料理をしてみたいという声が聞かれた。

○児童の感想

- ・水源林を見ました。天然の水が飲めたので良かったです。少し甘くておいしかったです。片品村の皆さんに色々してもらい、最高の2日間でした。
- ・宿の方が作ってくれたご飯はすごくおいしかったです。特に花豆の春巻きがおいしかったです。周りが山と畑だけで、紅葉がきれいでした。夜は星がきれいでした。自然がいっぱいでまたいてみたいです。
- ・私が一番心に残ったことは、りんご狩りです。採ってそのまま丸かじりしたのはおいしくて、楽しかったです。
- ・一番記憶に残ったのはこんにゃく作りです。こんにゃくはプルプルしていてしょう油につけて

食べるとすごくおいしかったです。片品村はこんにゃくいもがたくさん採れるということも学ぶことができました。

○保護者の感想

- ・りんご狩り、また、りんごジャム作りがとても印象に残ったようで、積極的には食べなかったりんごが好きになって帰ってきた。とても有り難いことである。
- ・帰りのリュックの中が、乱雑になっていないか心配でしたが、中を見てみると、とてもきれいに整理してあった。プレセカンドスクールの目的の一つ、身辺自立ができるようになって、とてもうれしく思った。
- ・班についていただいた指導員の方がとても良い方で、子供が喜んでいた。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習で、片品村のりんご、大白大豆、こんにゃく、豆腐の作り方、水源について課題を設定し、各自パンフレットやインターネットなどの資料を使い調べた。調べたことを実際に見聞きし、子供たちの理解を深めることが出来た。事後学習のプレセカンドスクールのまとめにもとても意欲的に活動できた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでは日程的にゆとりのあるプログラムであるが、プレセカンドスクールでは、体験活動を多くし、充実感を味わわせることを目的とした。
- ・来年度のセカンドスクールにむけて、長期間、家庭を離れる生活をするための、身辺自立が出来るように配慮した。
- ・児童一人一人が事前学習で課題を明確にしたことで、課題を意識した活動をする事ができ来年度の課題別学習につなげることが出来た。

○次年度に向けての反省・課題

次年度にむけての課題としては、りんごジャム作りの方法ときのかきわりである。りんごの煮方は宿ごとに色や味に差が出てしまったので、統一できるよう依頼したい。又、当初計画していたかきわりは、晴天が続くと実施出来ないなので、その場合別メニューを検討したい。

関前南小学校

9月16日～9月18日(2泊3日)

○日程表

9月16日(水)		9月17日(木)		9月18日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストイングコテージ 着・開校式	7:30	民宿の方との交流	8:30	出発
10:30	林業体験	8:30	出発	9:00	井上コンニャク工場見学
12:30	昼食	9:00	都民の森着	9:45	シクラメン栽培見学
13:15	水生昆虫観察	9:20	三頭山ハイキング		西川屋商店見学
15:20	製材作業見学	12:00	三頭山山頂到着 昼食	10:30	井上食品発
17:00	各民宿着・入浴	12:30	山頂出発	11:00	檜原小学校訪問
18:00	夕食	14:00	木工教室・ワサビ田見学等		・弘沢の滝見学
19:00	学習の記録	15:15	都民の森発	12:20	昼食
20:00	健康観察・明日の準備	15:30	数馬分校記念館着	13:00	・ドッジボール大会
21:00	消灯	16:45	各民宿着・入浴	14:30	檜原小学校発
		18:00	夕食	16:45	学校着
		19:00	学習の記録		・帰校式
		20:00	健康観察・明日の準備	17:00	解散
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 社会科において

檜原村の概要について、社会科副読本を使用して事前学習をした。檜原村の人々が地域の地形的・地理的特性を生かしてどのような暮らしをしているのだろうかという学習課題を持った。

(2) 理科の学習において

水生昆虫とは何か、その種類、生息環境などについて学習した。また、現地講師の方に来ていただき、秋川で観察できる水生昆虫について教えていただいた。子どもたちは何とかして水生昆虫を捕まえようと、大きな石を裏返したり、何度も網をすくったりしていた。また、昆虫を捕まえると、講師に昆虫の名前を尋ねたりと意欲的に生き生きと活動していた。初めて見る水生昆虫に子どもたちは目を輝かせ、じっくり観察する姿が見られた。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数 男子29名 女子23名
計52名

② 事後の学習内容

(1) 総合的な学習において

「檜原村を伝えよう」として、グループ別に体験したことをまとめ、3年生児童を対象にポスターセッション形式で発表を行った。それぞれのグループで発表した内容は次の通りである。

- 水生昆虫…秋川で観察した水生昆虫とその捕り方、活動の様子
- 林業体験…下草刈りの方法、林業の大切さ、活動の様子
- 交通…檜原村の道路、交通手段
- 都民の森…三頭山、木工教室、活動の様子
- コンニャク作り…コンニャク工場における製造方法、活動の様子
- シクラメン栽培…シクラメン栽培の様子
- 宿舎…檜原村の旅館・民宿の特徴、宿舎の人の思い
- 観光…檜原村の観光地、特産品

(2) 社会科において

「わたしたちの東京」2 地形の特色を生かす～山地にくらす人々～

この単元では東京都の山地として檜原村が取り上げられている。そのため、プレセカンドスクールでの体験が学習に直結した。

(3) 国語科において

手紙文の練習として、プレセカンドスクールでお世話になった方々や檜原小学校の児童に手紙を書いた。また、プレセカンドスクールでの体験を作文に表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

- ・林業体験として、大鎌で下草を刈り、のこぎりで低木を切るなどの下草刈りを行った。
- ・秋川では水生昆虫を採集して観察した。
- ・三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。山頂に向かう途中に出会った様々な動植物については、都民の森のガイドの方から説明を受けた。
- ・都民の森を散策し、山林のレクリエーションの場としての利用のほかに、ワサビ田や炭焼き場など山地の地理的条件を生かした檜原ならではの産業を見学した。

＜学習体験活動＞

- ・林業体験では、地元のキャリア 30 年～50 年の熟練した講師の方々から森林の保全や管理、植林などについての話を聞いた。また、手厚い指導を受けることができた。(子ども10名あたり一人の講師)
- ・檜原村の土地の利用の仕方を見て、学校で学習してきたことを確かめた。
- ・「都民の森」の木工教室で、杉板から型どりをして、電動のこぎりでキーホルダーを作った。

- ・ 檜原小学校数馬分校では昔の檜原村の暮らしについて話を聞いた。
- ・ 檜原村の特産物であるシクラメン作りの様子やコンニャク工場の見学を行った。
- ・ 西川屋商店見学では、商店の方に質問をすることで、日常生活に必要なものを購入する手段であることがわかった。

＜生活体験活動＞

地域の人々とのふれあい

- ・ 宿舎の方と交流した。今年度から、宿舎の方との交流する時間を設けた。檜原村の特産物であるコンニャク作りをして交流した。コンニャク芋をすり下ろす過程から体験させてもらったので、子どもにとっても貴重な経験であった。
- ・ コンニャク工場見学では、檜原ならではのこだわりのコンニャク作りについて話を聞くことができた。また、できあがったコンニャクを実際に試食させてもらい、味を確かめた。
- ・ 檜原小学校の子どもたちと交流した。午前中はグループごとに、檜原小学校の児童が本校の児童を弘沢の滝まで案内し、説明を受けた。午後は体育館でドッジボールとお玉リレーをした。各チームに指導員も入り、盛り上がって楽しむことができた。

○児童の感想

- ・ 一番楽しかったことは、三頭山登山です。岩や石、すべりやすい道、急な坂などがあり登るのが大変でしたが、頂上で食べたお弁当がとてもおいしく感じました。
- ・ 水生昆虫の観察と三頭山登山が楽しかったです。水生昆虫では川トンボの幼虫を見つけました。三頭山では蛇を見つけました。
- ・ 私が一番楽しかったのはキーホルダー作りです。図工の時間に上手にできたので自信はあったけど、思ったよりもむずかしくて失敗した所もあったけど、作れたのでよかったです。
- ・ 私が楽しかったことは、檜原小の4年生が弘沢の滝に連れていってくれたことです。大きな滝で水しぶきが少し飛んできました。楽しかったです。
- ・ 三頭山登山が一番印象に残っています。ずっと歩いていてすごく疲れたけど、その分頂上に着いたときはすごくうれしかったです。「かんづくり荘」はお風呂が気持ちよかったです。
- ・ 檜原小との交流で一緒に給食を食べた事や弘沢の滝を見学した事が、とても楽しかったです。給食のおかわりのやり方や図書室が木でできていることなど、南小と違っていました。
- ・ 三頭山は下りのほうが大変だぞと言われたけど、両方大変でした。上りは登るのが大変で、下りは急な坂で地面がツルツルして、大変でした。「登ってよかったな。」と思いました。

○保護者の感想

- ・ 万全な体調でプレセカンドスクールに参加できるように、自分の体調に気を配っていました。
- ・ 特に不安もなくむしろ期待感の方が大きかったようです。いろいろな役割も与えられ、はりきっていました。宿では指導員の先生の話をよく聞き、早め早めに先のことを取り組むことができたと話していました。
- ・ 檜原小学校との交流が楽しかったそうです。ドッジボール大会が楽しかったことや最後まで見送りをしてくれて嬉しかったそうです。
- ・ 家では与えられた物を食べるだけですが、宿舎で生活をし準備や後片付けを協力してやった

ことが楽しかったようです。帰ってからも進んで手伝うようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習では、檜原村の特色を社会科の学習を通して学習した。
- ・事前にプレセカンドスクール中に見学する施設や講師の先生の紹介をし、質問内容を考えさせた。
- ・事後学習では、現地では分かり得なかったことに関しては、資料収集をして課題を解決した。また、まだ檜原村のことを知らない3年生にも分かるように、写真を選び、添付した。



【手作りコンニャク作りの様子】

- ・発表原稿をそのまま読んで聞き手が飽きてしまうので、発表の中にクイズを取り入れたり、現地でもらったものを紹介したりした。発表形態の工夫を考えさせることで、表現力を高めることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・学校で行う初めての集団宿泊体験なので、心構えや集団生活の指導に重点をおいた。
- ・現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝する意義を話した。
- ・持ち物の準備や片づけ部屋の整理整頓などができるよう意識付けしてきた。
- ・セカンドスクールで鳥海山に登るので、精神的・肉体的準備として、三頭山登山を実施した。
- ・セカンドスクールでは、農業体験（稲刈り）・漁業体験（鮭のふ化、捕獲、鮭の加工品作成）を予定しているが、林業体験はできないため、林業体験を行った。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今年度から宿舎の方との交流の一つとして、コンニャク作りを行った。コンニャク作りは檜原村の特産物であり、コンニャク芋も見せてもらった。朝作ったコンニャクが夕飯で出されたので、子ども達も喜んでいて、初めての試みだったが来年度以降も宿の方と打ち合わせを行い、継続させたい。2点改善点を挙げる。
 - ① 時間設定…朝の時間帯に限られた時間に行き、慌ただしかった。実際、定刻に出発できない宿もあり、その後の活動が少し遅れてしまった。改善点としては、2日目の朝の起床時刻を30分繰り上げて6時起床にするか、1日目の夕飯終了後に交流の時間を設けるかである。
 - ② 持ち物…コンニャクいもをすり下ろす際、ビニール手袋が必要であった。学校で使い捨てのビニール手袋を用意したが、すぐに破れてしまった。来年度も交流を行うのであれば、持ち物の一つに入れた方がよい。
- ・2日目、三頭山登山を終えてから、都民の森の木工体験や散策の時間が短くなってしまった。2日目の行程は盛り沢山であるので、時間的に配慮するのであれば、行程内容を精選する必要がある。

桜野小学校

9月16日～9月18日(2泊3日)

○日程表

9月16日(水)		9月17日(木)		9月18日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:45	学校発(バス)	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食
9:30	アクアライン川崎 海ほたる(休憩) アクアライン木更津	8:40	集合・ホテル発	8:00	荷物の準備・大掃除
		9:15	地引網体験(富浦海岸)	9:10	ホテル発
		11:30	ホテル着・昼食	9:30	沖ノ島着
11:00	野鳥の森着 ハイキング・昼食	13:00	沖ノ島着		沖ノ島探険(2日目)
			沖ノ島探険(1日目)	11:30	ホテル着・昼食
13:30	野鳥の森発	16:00	ホテル着	12:30	ホテル発
14:00	砂山着・砂山すべり体験	16:45	入浴・活動のまとめ	13:30	アクアライン木更津
15:45	ホテル着・開校式・入浴	18:00	夕食		海ほたる(休憩・見学)
18:00	夕食	19:00	海ほたる鑑賞会	15:00	アクアライン川崎
19:00	活動のまとめ、海ほたる鑑賞	20:00	活動のまとめ	16:00	学校着・解散式
20:30	健康観察・就寝準備	20:30	健康観察・就寝準備	16:30	解散
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 館山の自然を知ろう(総合的な学習の時間)

館山について、様々な視点からテーマを考え、調べ学習をした。調べたことをもとに自然など様々な事象に進んで働きかけていき、意欲を高めていくことをねらった。また、海の生き物について調べたり、野鳥の森に生息する鳥を中心に調べることで鳥・魚図鑑を作成した。ビーチコーミングについて調べたり、石・地形・地質・砂山について調べたり等様々なテーマから館山に迫ることができた。

(2) 館山について詳しくなろう(社会科)

事前に出前授業として、館山市の観光協会の方々に学校に来ていただき、2時間程の授業をしてもらった。市の特徴をスライドで細かく、分かりやすく説明していただき、実際沖ノ島で採集されたイルカの骨や貝などを見せていただくことで、事前の取り組みがより活発になった。

(3) 集団生活における指導(学級活動)

児童が生活の流れやその日の活動の特色やねらいをつかみ、主体的に活動できるように、

千葉県館山市

参加人数 男子31名 女子35名
計66名

事前に説明をした。また、係活動として、プレセカンド期間中の役割を分担し、仕事の内容について話し合う場を設けた。また、音楽科の授業の一環として「レッツゴー沖ノ島」を歌い、現地でのレクリエーションとして活かせるようにした。

② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中で一番印象に残ったことを作文にまとめた。
- ・ビーチコーミングで拾ってきた、貝、シーグラス、木の実等を使って、貝工作を作る。
- ・共通のテーマからそれぞれの発表形式にまとめる。役割分担をし、発表する。
- ・保護者へ…自分たちがプレセカンドスクールで最も印象深かったことやその時の生活の様子を 50 文字程度の短い文章に集約した感想文集を「プレセカンド報告」として配った。その際、活動の様子がわかる写真等も掲載した。子どもたちの活動の様子を 1 時間ほどのビデオにおさめ、保護者会の際、観ていただく予定である。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、野鳥の森

1 時間半程度で回れるハイキングコースを行動班ごとにゴールを目指して歩いた。迷いそうな分岐点には進む方向を提示した写真付きのハイキングマップをもって歩いた。天候に恵まれ、途中の展望台からは鏡ヶ浦をきれいに望むことができた。ポイントでは手作りのバードコールを鳴らし、時折聞こえる野鳥を観察しながら楽しんで歩いた。

3 年時に青梅丘陵をグループ毎にハイキングした経験があるため、各グループ共、協力しながら進むことができた。班で励まし合い、全員歩き通すことができた。

2、砂山滑り体験

滑る地点に行く間も、長く緩い砂山の傾斜を、息を切らせながら登った。実際に滑る地点に到着すると、始めはあまりの急傾斜に立ちすくんでいた子どもたちだったが、次第にその傾斜に慣れてくると何度も登り、夢中になって砂滑りを体感していた。

海から自然に吹き付けた砂によってできたものだという地元の方のお話や、30 年後には砂山が無くなってしまふかもしれないというお話も聞くことができ、自然の雄大さを感じながらの活動となった。



【急な砂山滑りを体感】

3、沖ノ島探検・ビーチコーミング

無人島・沖ノ島探検の 1 日目は、地元の「海の鑑定団」の方々から島をぐると一周しながら島の概要や館山の海の生き物について教えていただいた。鑑定団の方々のお話にとっても興味

を持って聞き入っていた。歩いて一周できる島の海岸線は、場所によって、いろいろな様子が見られた。また1日目の午後と2日目の午前では時間差があり、海水の干満の差で海岸線には様子の違いが見られた。

ゴツゴツした岩の潮だまりで生き物を見つけ、地層の見える洞窟を見学し、貝殻やシーグラスが散りばめられている砂浜でビーチコーミングをした。豊かな自然の中で地形や海の生き物のことを学びながら活動を思う存分楽しむことができた。



【説明を聞きながら散策】

<学習体験活動>

1、海ほたる鑑賞会

事前にホテルの方が捕まえてきてくれた海ほたるを鑑賞した。海ほたるが発光するしくみや戦争中の悲しい使われ方などのお話を聞いた後、発光する瞬間の様子を目の当たりに見た子ども達は思わず歓声をあげ、とても感動していた。貴重な体験となった。

2、地引網体験

朝食後、ホテルから用意していただいたバスに30分程乗り、目的地であると富浦海岸にて地引網を行った。沖に張られた網を左右に分かれて必死で引いた後、網が海岸近くになるとどの子ども達も躊躇なく網にかかった魚を懸命に捕まえた。その後、猟師さんからかかった魚の名前や特徴を教えていただいた。生きた魚を素手で触れたこと、魚をめがけて鳥が集まってきたことなど自然の営みのすごさに驚く姿が印象的だった。その日の夕食



【みんなで引いた地引き網】

に調理された魚をいただき、命の大切さと感謝の気持ちを改めて実感できた活動となった。

○児童の感想

- ・手作りのバードコールを鳴らしてみたらコゲラの鳴き声がありました。戻って来た時、クジャクがいました。楽しかったです。
- ・砂山を一番楽しみにしていました。すべるのが楽しかったです。転びすぎて砂まみれになりました。
- ・みんなで綱引きのように力いっぱい網をひきました。たくさんとれてうれしかったです。
- ・沖ノ島探検でオオヘビガイを見つけました。指導員の「うみがめさん」が教えてくれた通り、やったら鳴りました。うれしかったです。
- ・初めて見た海ホタルは青く、きれいに光っていました。とても美しかったです。
- ・宝贝を拾うのに夢中になりました。大きいのが小さいのがたくさんありました。
- ・ホテルの食事はおいしかったです。地引き網でとれた魚のお刺身が一番おいしかったです。
- ・夕日がすごくきれいだったので、そのことを俳句にしてよみました。
- ・私の班はケンカもしたけどその後、とても仲よくなりました。寝る前にみんなでお話をしま

した。すごく楽しい班になりました。

○保護者の感想

- ・先生や友達と共に過ごせた3日間はとても楽しかったようで貴重な体験をさせていただきました。ホテルから見える夕日に感動し、料理がとてもおいしかったこと、砂山はおもしろかったこと、ビーチコーミングでは夢中だったこと・・・色々話してくれました。いつか家族でも行きたいなあと思います。
- ・家を離れての宿泊は不安だったようですが、何事もなく帰ってくることができたこと、友だちと一緒に過ごしたことに大きな自信を持てたようです。貴重な体験をありがとうございました。

○総合的な学習の時間との関連について

1学期の総合的な学習の時間では、進んで課題を見つけ、関心を深めながら学習を進めることができ、自然や周囲の人に進んではたらきかけていけることをねらった。そこでまず、訪れる野鳥に目を向けて自分なりに調べてまとめる「鳥図鑑作り」を行った。その後、沖ノ島に生息する貝、植物、魚に目を向け、調べ学習を進めた。そして最終的に実施地である館山に関して興味のあることをもとに「館山図鑑作り」へと発展させていった。現地では、一人一人が自分の課題意識をもって、それぞれの活動に取り組んだ。現地指導員へも積極的に自分の疑問を投げかけ、課題を解決することができた。学校に戻った後は、事前学習と現地での体験をまとめ、自分の体験をより明確にすることができた。

事前・現地・事後を通して、「課題をつかむ、調べる、見る、触る、感じる、まとめる、伝える」という学習の流れを体験できた。これは、今後の総合的な学習を始めとする様々な学習活動に有効的な体験である。

○セカンドスクールとの関連について

- ・学年合同で様々な活動を行うことで、連帯感を育て、集団として活動すること、協力することのよさを改めて味わい、確認することができた。
- ・現地指導員や生活指導員など、大人との関わりに目を向ける指導を重ねた。子どもたちは、自分たちの活動を支える様々な方々の願いや努力を知り、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・公共のマナーや集団生活のルールについて、十分に指導し、活動に取り組ませた。その結果、宿泊を伴う学習の際、子どもたちへ配慮することや課題点も明確になり、来年度の長期宿泊に向けて、今後の指導の参考になった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・天候不良の疑い（台風接近）があるため、数日前に地引き網の場所を変更し、何とか実施できる運びとなった。地引網体験など天候に大きな影響のあるスケジュールの場合、現地との連絡を細部にわたって行い、柔軟に対応できるような措置を準備しておく必要がある。
- ・日程に余裕をもたせていたため、武蔵野では体験できない自然を満喫し、充実した集団生活を元気に送ることができた。